1．はじめに

現在マンガは、表現手段の１つとして大きな位置を占めている。マンガ雑誌の発行部数は大きく、こども向けのものから、そのマンガで育ったおとな向けのものまで、広い年代の支持を集めている。最近では、従来活字で表現されてきた知識を与える目的のものでも、マンガが用いられていることが多くある。

このように広く読まれているマンガではあるが、誰にでも読めるというものではない。活字で書かれた小説などを読むのに訓練が必要なように、あるいは、映画などの映像を理解するためには映像世界での約束事を知らなければならないように、マンガを読む上でも知識が必要である。おそらく、こどもが言葉を覚えるように、実際に多くの作品にふれることによってそのような知識を獲得していくのであろう。マンガを読む際に要求される知識としては、登場人物の同定の仕方、コマの読み進め方、時空間の認知の仕方、発言の方向を知る方法などがあげられるが、これらは一定ではなく、作者や作品毎に異なっていることが多い。それでも読者はいろいろなマンガを読むことができる。マンガを読むとき、いったい人は何を知っているのであろうか。

本実験の目的は、人がマンガを読む際にどこを見ているのかその視線を分析することにより、人はどのようにしてマンガを読んでいるのかについて検討するための基礎的な知見を得ることである。

2．方法

2.1．被験者

22歳女性１名。本被験者は、マンガが好きで、幼い頃からよく読み、マンガ以外のフィクション（映画、テレビドラマ、小説など）にも親しんでいる者であった。

2.2．材料

萩尾望都「お葬式」(CD-ROM DIGITAL GALLERY　萩尾望都作品集 『[sanctus] 聖なるかな　聖なるかな　聖なるかな』(小学館）より）のマニュアル・モードを実験材料とした。これは全４頁からなるカラー作品であった。あらすじは以下のようなものであった。「(第１頁）夏のある日、主人公の少年は父親と病気の祖母を見舞う。父親の表情は能面のように硬く、祖母の表情もこわばっている。ありきたりの見舞いをいう父親とそれに文句をつける祖母。(第２頁）別室では親類が集まっていて病状について話している。少年は父親と祖母とのやりとりを不審に思い、祖母のいった「ハズレの息子」の意味を伯母に尋ねるがかわされる。父親は祖母に対する恨み言を平然と親類（姉たち）に述べる。父親は祖母の葬儀で姉たちから無表情を指摘され、(第３頁）少年は「パパのお面」をはずすが、そこには何もなかった。(第４頁）葬儀の帰途、亡霊となって父親にとりつく祖母を見た主人公の不安に対し、そのことを知っていた父親は、祖母の軋轢に対する反抗を宣言する。それに対して少年は「顔ができるね」というが、祖母は相変わらず「許さない」と父親に取りすがる。」

マニュアル・モードでは、通常の単行本や雑誌におけるのと同じように、各頁が独立していた。なお、被験者は本材料を以前に見たことはなかった。CD-ROM から取り込んだ原画を Adobe PhotoShop で画面の大きさに合わせて加工したものを実際の刺激として用いた。

2.3．装置

刺激呈示は、PowerMacintosh8500/120上で制御し、ナナオ21インチモニタを用いた。眼球運動は、Applied Science Laboratory 製の504 Pan/Tilt モデルで測定した。被験者の行動は、被験者の表情と机上での操作を別のビデオカメラで記録した。これら眼球運動と行動記録とは４画面分割器で同期して記録した。さらに、被験者の自発的な発話も記録した。

2.4．手続き

被験者はディスプレイの前に楽な姿勢で着席した。材料はディスプレイ上に１頁ずつ呈示された。頁の移動は、プルダウンメニューから希望する頁を選択することによって行われた。被験者は予めこの操作について習熟していた。被験者は自らマウスを操作することにより、自身のペースで読み進められていった。その際、以前の頁に戻ることも許された。全て読み終わった後に、内容の再生と内容の理解に関する簡単な質問を行い、口頭で答えてもらった。読み終わるまでの時間は、約４分間であった。なお、本実験は、他の材料や同じ材料の別条件を用いた一連の実験の内の１つであり、本材料については、既に別条件での試行が行われていた。

2.5．分析の方法

材料を読む際、被験者がどこを見ているのか、視線の分析を行った。具体的な分析方法は以下の通りであった。

１秒間を30に区切り、１/30秒ごとに被験者がどこをみているのかを記述していった。視線の位置は、頁、段、コマに分け、さらにコマ内での対象を特定した。ただし、対象内での移動は、特に区別しなかった。同時に被験者の行動（瞬き、操作など）や画面の状態についても記述した。次にこの結果からその対象に視線が移った時点と持続時間とを抽出した。ただし、瞬きなど運動に関しては、終わった時点も示した。さらに、視線の位置がコマ内の空白やコマ間の枠線などにあるものは除き、文字（登場人物のセリフなど）や絵（登場人物や背景など）にあるものについてのみを、最終的な分析の対象とした。

以上のようにして視線の移動を追跡した。

3．結果

まずはじめに全体の流れを見、次に各コマ内での視線の移動について、絵と文字との見方に着目して分析した。次いでコマ間での視線の移動、初めて読んだときと読み返したときとの違い、内容の再生との関連について検討した。以下、以上の項目について、各頁ごとに述べる。

3.1．全体の流れ

［第１頁］　被験者は２回材料を読んだ。１回目と２回目の区切りは、再び１段目のタイトルに視線が戻った時を２回目の始まりとした。以下に、各回毎の視線の移動を順に示す。その際、アイマークが瞬きに伴い消失したものや、段間、コマ間にあるものは省いた。各回の所要時間は、１回目が41秒94、２回目が10秒74、合計52秒68であった。

１回目はほぼ、段、コマの順序通りに読まれた。はじめに１段目のタイトルを見た。次に２段目の１コマ目の少年を帽子、顔などと詳しく見、２コマ目の祖母へと移った。次に１コマ目に戻り、ナレーションを読むが、その最中に何度か少年も見直していた。２コマ目へ進みセリフと絵とを交互に見た後３コマ目の父親へと視線が移動した。３コマ目のセリフを読んだ後、再び２コマ目に戻ってから３コマ目の父親とセリフとを交互に見た。３段目ではまず少年を見た後、背景へ目を移し、祖母の右のセリフへと進んだ。次に果物かごを見、再び祖母の右のセリフへ移った後、背景を見た。その後２段目の２コマ目の布団に戻り、３コマ目の父親へ進んだ。再び３段目へ移るが、まず父親のセリフを読み、続いて祖母の左のセリフを読んでから背景と少年とを交互に見、祖母の右のセリフの２つ目を再び読んだ。２段目の２コマ目の布団を見てから４段目の１コマ目に移った。まず少年を見、その後少年のセリフと少年とを交互に見た後、今度は少年と父親とを交互に見た。２コマ目の父親のセリフを読んだ後、１コマ目の父親のセリフを読み、以後、１コマ目と２コマ目の父親のセリフを交互に読んだ。１コマ目の父親を見た後、２コマ目の父親を見、父親のセリフを読んだ後、１度１コマ目の父親のセリフに戻ってから２コマ目の父親のセリフと父親とを交互に見た。３コマ目の布団を見てから、また２コマ目に戻り、父親と父親のセリフとを交互に見た後、３コマ目に進み祖母を見てから祖母のセリフを読み、３段目の祖母の左のセリフへ戻った。

２回目もほぼ、段、コマの順序通りであった。１段目のタイトルを見てから２段目の３コマ目の父親を見、父親のセリフを読んだ。３段目に移り、祖母の右のセリフを読んでから、２段目の祖母の布団へと目を向け、再び３段目の少年を見た。４段目へ進み、１コマ目の父親のセリフを読んでから父親を見た。２コマ目の父親を見てから１コマ目の父親のセリフへ戻り、再び２コマ目の父親のセリフへ進んだ。その後２コマ目の父親を見てから１コマ目の父親のセリフを読み、２コマ目の父親のセリフを読み、父親を見た。３コマ目の祖母を見てから２コマ目の父親に戻り、３段目へと視線を移した。３段目では祖母の左のセリフを見てから少年を見、最後に祖母の右のセリフを見てから、頁を改めるため、マウスを動かしはじめ、同時に視線もプルダウンメニューの方へ転じた。

［第２頁］　全体を通して１度しか読まなかった。所要時間は、51秒21であった。ほぼ、段、コマの順序通り読み進んだが、後半ではコマを逆にたどり、読みあがっていった。以下、詳述

する。

はじめに１段目の茶色い服の男を見てから３段目の受付へ視線を転じ、４段目２コマ目のセリフを見てから、１段目へ戻った。次女、次女のセリフを何度か交互に見てから緑の服の男、障子と進み、次女に戻った。２段目１コマ目の次女を見てから１段目に戻り、周辺の背景などを時々見ながら、次女を長く見てから長女、少年、長女、少年のセリフ、少年と見た。２段目２コマ目の父親のセリフを見てから１段目へ戻り、少年のセリフと長女のセリフとを交互に繰り返し見てから２段目２コマ目の父親を見、また１段目へ戻った。長女のセリフ、少年のセリフ、長女、長女の周辺の背景と見てから、２段目１コマ目へ進んだ。長女のセリフ、次女、長女、次女のセリフ、次女、長女、長女のセリフ、父親、父親の後ろの襖、父親、長女のセリフと見てから、３段目の鯨幕、２段目１コマ目の次女のセリフ、いす、３段目の木、４段目２コマ目の父親、３段目の鯨幕、２段目１コマ目の長女のセリフ、３段目の木、２段目１コマ目の長女のセリフ、４段目２コマ目の長女のセリフ、３段目の鯨幕と移動した後、２段目１コマ目へ戻った。長女のセリフ、長女、長女のセリフを見た後、いすやすし桶などの背景を見、長女のセリフ、父親、長女のセリフと見て、３段目の受付に視線を転じ、また、２段目１コマ目へ戻った。長女のセリフと父親とを、間に襖を挟みながら、交互に繰り返し数回見られた後、２段目２コマ目へ進み、父親のセリフ、次女のセリフ、父親のセリフ、父親、父親のセリフ、次女、次女のセリフ、父親のセリフ、次女のセリフ、父親のセリフ、父親と見ていった。３段目へ進み、男女の弔問客や受付、鯨幕、木を見てから、４段目２コマ目の父親、４段目１コマ目の菊の花、遺影の額縁と進み、３段目へ戻った。地面、鯨幕、玄関と見てから２段目１コマ目の長女のセリフを見、３段目へ戻った。鯨幕、木、玄関と見てから、２段目１コマ目の長女のセリフ、２段目２コマ目の父親、２段目１コマ目の長女のセリフ、長女、障子、長女、長女のセリフ、３段目の鯨幕、４段目１コマ目の遺影のリボン、額縁と進んで３段目へ戻った。鯨幕、玄関、鯨幕を見てから、４段目１コマ目の遺影のリボン、額縁と見て、４段目２コマ目へ進んだ。父親と長女のセリフとを背景や長女を挟みながら、繰り返し交互に数回見た後、４段目１コマ目の菊の花、額縁に視線を移し、また４段目２コマ目に戻った。長女、次女、次女のセリフ、背景の人物たち、次女、背景の人物たち、父親と見てから、４段目３コマ目の父親、父親のセリフと進み、３段目に戻った。地面や弔問客を何人か見てから、４段目３コマ目の父親のセリフ、４段目２コマ目の背景の人物と父親を見、４段目１コマ目の額縁、菊の花などを見てから３段目へ戻った。鯨幕、木を見てから２段目１コマ目の長女のセリフ、父親、１段目の長女のセリフ、少年、長女、２段目１コマ目の長女のセリフ、次女のセリフ、１段目の次女のセリフ、次女、緑の服の男と見て、頁を改めるためにマウスを動かしはじめ、視線もプルダウンメニューの方へ向けた。

［第３頁］　第３頁は、通読回数が１回のみであり、所要時間は50秒54であった。全体の視線の移動はほぼ上から下へ、右から左へと、段・コマの順序通りであった。以下詳述する。

はじめに２段目のお面から見始めた。次に１段目２コマ目の父親へと移り、２段目に戻って宇宙空間を見、その後、父親の身体を見た。１段目１コマ目の襖を見てから、２段目へ戻り、父親の身体、宇宙空間、少年の左手、お面、宇宙空間へと視線を移し、３段目２コマ目の少年の身体を見てから、また２段目へ戻った。宇宙空間とお面とを交互に何度か見てから父親の身

体へ移り、１段目２コマ目の父親の身体を見、１段目１コマ目へ視線を移した。父親を見てから畳を見、その後、父親、父親のセリフ、父親、襖、父親のセリフ、襖、父親のセリフと見てゆき、１段目２コマ目に移動した。少年を見てから描き文字を見、１段目１コマ目へ戻り、父親、父親のセリフ、父親と見た後で２段目のお面を見た。再び１段目１コマ目へ戻り、父親と父親のセリフを見てから１段目２コマ目へ視線を移し、少年のセリフ、描き文字、父親を見た後で、２段目へ進んだ。父親を見てからお面を見、父親に戻ってから宇宙空間、父親、お面を何度か繰り返して見た。１段目２コマ目の少年と父親とを交互に見てから、２段目のお面をくわしく見、１段目２コマ目の少年、父親、少年と見てから、２段目の少年の手、３段目１コマ目の少年と進み、４段目２コマ目の父親から襖へと視線を移した。３段目１コマ目の父親と父親のセリフを交互に見てから、３段目２コマ目の少年と少年の２つのセリフを見、２段目へ戻った。宇宙空間と父親とお面とを何度か順に見てから３段目２コマ目の少年のセリフ、少年へと移り、４段目１コマ目の父親、４段目２コマ目の父親と父親のセリフ、襖を見、３段目２コマ目の少年のセリフと少年を交互に数回ずつ見た。４段目２コマ目の父親を見てから３段目１コマ目のお面、少年を見、４段目２コマ目の父親、３段目１コマ目の少年、４段目１コマ目の父親、３段目１コマ目のお面、少年、４段目２コマ目の父親のセリフ、３段目１コマ目の父親、父親の顔の空洞、４段目１コマ目の父親と見ていった。３段目１コマ目のお面と少年を交互に何度か見た後、４段目１コマ目の父親、３段目１コマ目の父親、少年、お面へと移り、４段目１コマ目の父親へ戻った。３段目１コマ目のお面を見てから父親の顔の空洞を見、３段目２コマ目の少年のセリフを見てから少年を見、４段目３コマ目の屋根を見、３段目２コマ目の少年、２段目の宇宙空間、１段目２コマ目の少年のセリフ、１段目１コマ目の父親のセリフから父親へと戻っていった。１段目２コマ目の少年のセリフ、父親へと続き、３段目１コマ目の父親のセリフ、父親を見てから２段目のお面を見、１段目２コマ目の少年、２段目の宇宙空間、４段目３コマ目の屋根、２段目の宇宙空間と父親、３段目１コマ目の少年、４段目１コマ目の父親と見てから４段目２コマ目へと進んだ。父親と父親のセリフを交互に何度か見てから少年のセリフへと進み、襖を見てから４段目３コマ目の木、柱と移動し、４段目２コマ目の少年のセリフ、襖、父親、襖と移り、４段目１コマ目の父親、４段目２コマ目の父親のセリフから襖、４段目３コマ目の柱から屋根へと進んだ。３段目２コマ目の少年、２段目の父親を見てから１段目１コマ目へ戻り、襖と父親のセリフ、父親を何度か見てから１段目２コマ目へ移った。少年のセリフ、描き文字、少年、父親、少年、描き文字、少年のセリフと見た後、１段目１コマ目の父親のセリフから襖へと戻り、その後、父親と父親のセリフを交互に見た。１段目２コマ目へと進み、少年のセリフ、父親、描き文字と見た後、１段目１コマ目に戻って、父親と少年、少年のセリフの後、少年と父親とを交互に見て父親のセリフから、１段目２コマ目の少年のセリフ、少年へと移動した。２段目のお面を見てから、最後に１段目２コマ目の少年と父親とを交互に見て、本頁を読み終わった。

［第４頁］　第４頁は、通読回数が２回であり、所要時間は、１回目が51秒45、２回目が９秒68、全体で61秒13であった。全体の視線の移動はほぼ上から下へ、右から左へと、段・コマの順序通りであった。以下詳述する。

まず最初に、１段目１コマ目の次女から見始め、次女のセリフへと移った。２段目の少年を

見てから山門へ視線を移し、１段目１コマ目へ戻った。父親、次女、板塀、次女と見て後、次女のセリフと父親とを交互に数回見て、次女のセリフから板塀、父親、父親のセリフ、板塀、次女のセリフ、板塀、父親のセリフ、板塀、父親と進んでいった。また２段目へ移ったが、つないでいる手を見た後父親へ視線を転じ、１段目１コマ目の父親のセリフ、１段目２コマ目の少年、１段目１コマ目の父親のセリフ、２段目の少年、山門を見、１段目１コマ目へ移った。板塀、父親のセリフ、板塀、次女のセリフ、父親、長女、次女、父親のセリフと見てから、１段目３コマ目へ進み、少年のセリフ、少年と見た後、少年のセリフと父親とを交互に数回見て、父親から少年へと移り、２段目へ進んだ。父親、山門、少年のセリフ、次女、少年のセリフ、長女と見た後、３段目１コマ目の父親を見、また２段目へ戻って、次女、少年のセリフ、山門、父親、祖母、木、父親のセリフ、ドブ板、父親、山門、次女と続き、３段目１コマ目の父親、２段目の少年、地面、次女、３段目１コマ目の父親、４段目の少年のセリフと進んだ。３段目１コマ目に戻って父親のセリフと父親とを交互に見てから、４段目の少年のセリフ、３段目１コマ目の父親のセリフ、４段目の少年のセリフ、２段目の煉瓦塀、父親のセリフ、１段目３コマ目の少年のセリフ、父親、少年のセリフと続き、２段目の木、１段目２コマ目の少年、１段目３コマ目の少年のセリフ、２段目の板塀、３段目２コマ目の父親のセリフ、２段目の板塀、１段目３コマ目の少年のセリフと進んでいった。２段目へ移り、ドブ板から父親のセリフへ、１段目３コマ目の少年のセリフ、２段目の板塀、父親のセリフ、１段目３コマ目の少年のセリフ、父親、２段目のドブ板、父親のセリフ、１段目３コマ目の父親と少年のセリフを交互に見、３段目２コマ目の父親のセリフ、２段目の板塀と移っていった。１段目３コマ目へ戻り、少年と少年のセリフを交互に見た後、２段目の煉瓦塀、１段目３コマ目の少年のセリフ、１段目２コマ目の少年、１段目１コマ目の父親と移ってから２段目に戻り、少年のセリフ、父親、少年のセリフ、木、少年のセリフから、３段目２コマ目の父親のセリフを経て、また２段目へ戻り、父親と祖母を、交互に繰り返し見たが、その合間に、父親のセリフや地面、板塀、木、次女、山門などが見られた。３段目１コマ目に進み、父親のセリフ、父親、と見てから、３段目２コマ目の父親のセリフ、２段目の少年、３段目２コマ目の少年、祖母、父親のセリフ、４段目の父親のセリフ、３段目２コマ目の父親のセリフ、祖母、もう一方の父親のセリフ、４段目の木、３段目２コマ目の父親のセリフ、祖母、少年、４段目の父親、祖母、父親のセリフへと移っていった。３段目２コマ目に戻り、父親のセリフと父親、祖母を数回交互に見てから少年を見、４段目へ進んで、少年を中心に、少年のセリフや父親、周りの民家や電信柱、地面などを見てから３段目１コマ目の父親、２段目の少年、父親、地面、３段目２コマ目の父親と移って、また４段目に戻ったが、今回は父親と祖母を中心に、父親のセリフや民家、山などが見られた。３段目２コマ目の少年、祖母、父親、４段目の祖母のセリフ、父親のセリフ、３段目２コマ目の父親、４段目の父親、３段目２コマ目の父親、４段目の父親のセリフ、３段目２コマ目の父親、４段目の父親のセリフ、山、父親、木、父親のセリフ、山、２段目のつないだ手と視線が移った後、１段目１コマ目へ戻った。以上が、１回目の通読である。

２回目の通読は、１段目１コマ目へ戻ったところからである。父親のセリフ、次女のセリフ、父親、父親のセリフと進み、１段目２コマ目の少年、１段目３コマ目の少年のセリフと父親とを交互に何度か見てから、１段目２コマ目の少年、２段目へと進んだ。山門、次女の後ろの男

性、次女、少年のセリフ、次女、少年のセリフ、次女、山門、木、父親、木、父親、木、祖母、少年と移り、3段目1コマ目の父親、3段目2コマ目の父親のセリフ、祖母、父親のもう一方のセリフ、父親と進んでいった後、最後に4段目へ移った。父親のセリフ、祖母、つないだ手、少年、地面、少年のセリフ、地面、少年、民家、父親のセリフ、木、祖母のセリフ、門柱、父親のセリフを見て、第4頁を読み終わった。

3.2. コマ内での視線の移動

被験者の視線の動きをたどると、あるコマから別のコマへと移動し、そのコマ内でのある対象から別の対象へという移動があり、また、別のコマへと移るということが繰り返されていた。ここでは、それぞれの頁の各コマ内における移動のうち、特に絵と文字との見方について検討した。

なお、第1頁と第4頁とにおいては、通読回数が2回であったが、ここではそれらを区別せず、全体の結果を示す。

3.2.1. 絵と文字とではどちらを先に見るか

多くのコマは、絵と文字との両方からなっている。最初にあるコマを見たとき、絵と文字のどちらを見ているのかについて検討した。また、1頁を通して読む中で、どのコマも複数回見られたが、それぞれの回においてそのコマに視線が移ったとき、はじめにどこを見ているのかについて分析した。

[第1頁]　第1頁は1段目を除き、すべてのコマが絵と文字との両方からなっていた。何度かコマの後戻りがあったが、そのコマに視線が移ったとき、はじめにどこを見ているのかについて分析した。結果を**表1－1**に示す。

表1－1　コマ内で最初に見る対象（第1頁）

	絵		文字		合計	初見
	回数	割合	回数	割合	回数	
2段目1コマ目	2	50%	2	50%	4	絵
2段目2コマ目	6	86%	1	14%	7	絵
2段目3コマ目	4	100%	0	0%	4	絵
3段目	3	33%	6	67%	9	文字
4段目1コマ目	1	13%	7	88%	8	絵
4段目2コマ目	4	40%	6	60%	10	文字
4段目3コマ目	3	75%	1	25%	4	絵
全体	23	48%	25	52%	48	絵：71%

最初に当該のコマに視線が移動したときに、まず絵を見るか文字を見るかについては、絵を見るコマが多かった。文字を見たのは、1段目の他に3段目、4段目2コマ目であった。また、

本頁を通して読むうち、同じコマを何度も見ることになるが、その際にはじめに見るのは、全体では絵と文字とが同数であるが、2段目2コマ目、2段目3コマ目、4段目3コマ目は絵から見始めることが多く、3段目、4段目1コマ目、4段目2コマ目は文字から見始めることが多かった。2段目1コマ目は、絵と文字とが同数であった。

[第2頁]　第2頁は3段目、4段目1コマ目以外のすべてのコマが絵と文字との両方からなっていた。何度かコマの後戻りがあったが、そのコマに視線が移ったとき、はじめにどこを見ているのかについて分析した。結果を**表2－1**に示す。

表2－1　コマ内で最初に見る対象（第2頁）

	絵		文字		合計	初見
	回数	割合	回数	割合	回数	
1段目	3	43%	4	57%	7	絵
2段目1コマ目	1	8%	11	92%	12	絵
2段目2コマ目	2	50%	2	50%	4	文字
4段目2コマ目	5	71%	2	29%	7	文字
4段目3コマ目	1	50%	1	50%	2	絵
全体	12	38%	20	63%	32	絵：60%

最初に当該のコマに視線が移動したときに、まず絵を見るか文字を見るかについては、絵を見るコマが多かった。文字を見たのは、2段目2コマ目と4段目2コマ目とであった。また、本頁を通して読むうち、同じコマを何度も見ることになるが、その際にはじめに見るのは、全体では文字の方が多かった。各コマ毎に見ると、絵の方が多かったのは、4段目2コマ目のみであり、2段目2コマ目、4段目3コマ目とが同数、他のコマは文字から見始めることが多かった。

[第3頁]　第3頁は2段目を除き、すべてのコマが絵と文字との両方からなっていた。何度かコマの後戻りがあったが、そのコマに視線が移ったとき、はじめにどこを見ているのかについて分析した。結果を**表3－1**に示す。

全てのコマにおいて、最初に当該のコマに視線が移動したときにまず見るのは絵であった。また、本頁を通して読むうち、同じコマを何度も見ることになるが、その際にはじめに見るのも、ほぼ全てのコマで絵であることが多かった。そのうち、1段目2コマ目と4段目2コマ目は絵と文字とが同数であり、3段目2コマ目はほぼ同じであった。

[第4頁]　第4頁はすべてのコマが絵と文字との両方からなっていた。何度かコマの後戻りがあったが、そのコマに視線が移ったとき、はじめにどこを見ているのかについて分析した。結果を**表4－1**に示す。

最初に当該のコマに視線が移動したときに、まず絵を見たのは1段目1コマ目、1段目2コマ目、2段目、3段目1コマ目であり、残りの1段目3コマ目、3段目2コマ目、4段目は文字が先であった。また、本頁を通して読むうち、同じコマを何度も見ることになるが、その際にはじめに見るのが絵であることが多かったのは、1段目1コマ目、1段目2コマ目、2段目、

3段目1コマ目であり、残りの1段目3コマ目、3段目2コマ目、4段目は文字を先に見る場合が多かった。つまり、そのコマにはじめに視線が移ったときに絵と文字のどちらを見たかということと、その後そのコマを見直したときにどこから見始めるかとは一致していた。

表3－1　コマ内で最初に見る対象（第3頁）

	絵		文字		合計	初見
	回数	割合	回数	割合	回数	
1段目1コマ目	7	78%	2	22%	9	絵
1段目2コマ目	6	50%	6	50%	12	絵
3段目1コマ目	9	82%	2	18%	11	絵
3段目2コマ目	4	57%	3	43%	7	絵
4段目1コマ目	7	100%	0	0%	7	絵
4段目2コマ目	4	50%	4	50%	8	絵
4段目3コマ目	4	100%	0	0%	4	絵
全体	56	77%	17	23%	73	絵：100%

表4－1　コマ内で最初に見る対象（第4頁）

	絵		文字		合計	初見
	回数	割合	回数	割合	回数	
1段目1コマ目	4	57%	3	43%	7	絵
1段目2コマ目	5	100%	0	0%	5	絵
1段目3コマ目	2	20%	8	80%	10	文字
2段目	20	95%	1	5%	21	絵
3段目1コマ目	5	63%	3	38%	8	絵
3段目2コマ目	5	38%	8	62%	13	文字
4段目	4	33%	8	67%	12	文字
全体	45	59%	31	41%	76	絵：57%

3.2.2. 絵と文字とではどちらをよく見ているか

そのコマを構成している絵と文字それぞれについて、どのように見られているのか、量的に検討した。

[第1頁]　第1頁の絵と文字それぞれの、見た回数と平均持続時間とを**表1－2**に示す。全体では、見た回数では絵の方が多く、平均持続時間は文字の方が長かった。

また、タイトルである1段目は除いて各コマ毎に見てみると、見た回数については、3段目を除き、すべてのコマで絵の方が多かった。平均持続時間については、2段目2コマ目以外は、すべてのコマで文字の方が長かった。

表１－２　各コマ毎の視線位置（絵と文字）（第１頁）

		回数			割合		
		絵	文字	計	絵	文字	計
１段目	見た回数　（回）	/	3	3	/	100%	100%
	総持続時間（msec）	/	51	51	/	100%	100%
	平均持続時間（msec）	/	17	17	—	—	—
２段目１コマ目	見た回数　（回）	6	4	10	60%	40%	100%
	総持続時間（msec）	102	209	311	33%	67%	100%
	平均持続時間（msec）	17	52.3	31.1	—	—	—
２段目２コマ目	見た回数　（回）	9	2	11	82%	18%	100%
	総持続時間（msec）	178	23	201	89%	11%	100%
	平均持続時間（msec）	19.8	11.5	18.3	—	—	—
２段目３コマ目	見た回数　（回）	8	4	12	67%	33%	100%
	総持続時間（msec）	96	214	310	31%	69%	100%
	平均持続時間（msec）	12	53.5	25.8	—	—	—
３段目	見た回数　（回）	14	24	38	37%	63%	100%
	総持続時間（msec）	204	676	880	23%	77%	100%
	平均持続時間（msec）	14.6	28.2	23.2	—	—	—
４段目１コマ目	見た回数　（回）	17	9	26	65%	35%	100%
	総持続時間（msec）	175	179	354	49%	51%	100%
	平均持続時間（msec）	10.3	19.9	13.6	—	—	—
４段目２コマ目	見た回数　（回）	15	11	26	58%	42%	100%
	総持続時間（msec）	122	479	601	20%	80%	100%
	平均持続時間（msec）	8.1	43.5	23.1	—	—	—
４段目３コマ目	見た回数　（回）	3	2	5	60%	40%	100%
	総持続時間（msec）	17	13	30	57%	43%	100%
	平均持続時間（msec）	5.7	6.5	6	—	—	—
合計	見た回数　（回）	72	59	131	55%	45%	100%
	総持続時間（msec）	894	1844	2738	33%	67%	100%
	平均持続時間（msec）	12.4	31.3	20.9	—	—	—

［第２頁］　第２頁の各コマ毎の絵と文字それぞれの、見た回数と平均持続時間とを**表２－２**に示す。全体では、見た回数では絵の方が多く、平均持続時間は文字の方が長かった。絵だけで構成されている３段目と４段目の１コマ目とを除いて、絵と文字との見られ方を各コマ毎に比較してみると、見た回数については２段目の２コマ目は文字の方が多く、４段目の３コマ目は、絵と文字とが同数であった。また、平均持続時間は、全てのコマにおいて文字の方が長かった。

表２－２　各コマ毎の視線位置（絵と文字）（第２頁）

		回数			割合		
		絵	文字	計	絵	文字	計
１段目	見た回数　（回）	54	17	71	76%	24%	100%
	総持続時間（msec）	884	362	1246	71%	29%	100%
	平均持続時間（msec）	16.3	21.3	17.6	/	—	—
２段目１コマ目	見た回数　（回）	39	26	65	60%	40%	100%
	総持続時間（msec）	401	814	1215	33%	67%	100%
	平均持続時間（msec）	10.3	31.3	18.7	—	—	—
２段目２コマ目	見た回数　（回）	8	12	20	40%	60%	100%
	総持続時間（msec）	77	274	351	22%	78%	100%
	平均持続時間（msec）	9.6	22.8	17.6	—	—	—
３段目	見た回数　（回）	43	/	43	100%	/	100%
	総持続時間（msec）	400	/	400	100%	/	100%
	平均持続時間（msec）	9.3	/	9.3	—	—	—
４段目１コマ目	見た回数　（回）	24	/	24	100%	/	100%
	総持続時間（msec）	143	/	143	100%	/	100%
	平均持続時間（msec）	6.0	/	6.0	—	—	—
４段目２コマ目	見た回数　（回）	33	15	48	69%	31%	100%
	総持続時間（msec）	290	355	645	45%	55%	100%
	平均持続時間（msec）	8.8	23.7	13.4	—	—	—
４段目３コマ目	見た回数　（回）	1	1	2	50%	50%	100%
	総持続時間（msec）	20	26	46	43%	57%	100%
	平均持続時間（msec）	20	26	23	—	—	—
合計	見た回数　（回）	202	71	273	74%	26%	100%
	総持続時間（msec）	2215	1831	4046	55%	45%	100%
	平均持続時間（msec）	11.0	25.8	14.8	—	—	—

［第３頁］　第３頁の絵と文字それぞれの、見た回数と平均持続時間とを**表３－２**に示す。見た回数については、全体では絵の方が多く、各コマ毎においても、絵の方が多かった。平均持続時間についても、全体では絵の方が長く、各コマ毎においても、４段目２コマ目を除いて、絵の方が長かった。

表３－２　各コマ毎の視線位置（絵と文字）（第３頁）

		回数			割合		
		絵	文字	計	絵	文字	計
１段目１コマ目	見た回数　（回）	52	13	65	80%	20%	100%
	総持続時間（msec）	601	137	738	81%	19%	100%
	平均持続時間（msec）	11.6	10.5	11.4	—	—	—
１段目２コマ目	見た回数　（回）	40	18	58	69%	31%	100%
	総持続時間（msec）	410	132	542	76%	24%	100%
	平均持続時間（msec）	10.3	7.3	9.3	—	—	—
２段目	見た回数　（回）	80	—	80	100%	—	100%
	総持続時間（msec）	885	—	885	100%	—	100%
	平均持続時間（msec）	11.1	—	11.1	—	—	—
３段目１コマ目	見た回数　（回）	30	3	33	91%	9%	100%
	総持続時間（msec）	393	17	410	96%	4%	100%
	平均持続時間（msec）	13.1	5.7	12.4	—	—	—
３段目２コマ目	見た回数　（回）	14	7	21	67%	33%	100%
	総持続時間（msec）	310	80	390	79%	21%	100%
	平均持続時間（msec）	22.1	11.4	18.6	—	—	—
４段目１コマ目	見た回数　（回）	16	0	16	100%	0%	100%
	総持続時間（msec）	85	0	85	100%	0%	100%
	平均持続時間（msec）	5.3	0	5.3	—	—	—
４段目２コマ目	見た回数　（回）	20	8	28	71%	29%	100%
	総持続時間（msec）	223	133	356	63%	37%	100%
	平均持続時間（msec）	11.2	16.6	12.7	—	—	—
４段目３コマ目	見た回数　（回）	6	0	6	100%	0%	100%
	総持続時間（msec）	118	0	118	100%	0%	100%
	平均持続時間（msec）	19.7	0	19.7	—	—	—
合計	見た回数　（回）	258	49	307	84%	16%	100%
	総持続時間（msec）	3025	499	3524	86%	14%	100%
	平均持続時間（msec）	11.7	10.2	11.5	—	—	—

［第４頁］　第４頁の絵と文字それぞれの、見た回数と平均持続時間とを**表４－２**に示す。全体では、見た回数については絵の方が多く、平均持続時間については文字の方が長かった。各コマについて、見た回数では、１段目１コマ目、１段目３コマ目、３段目２コマ目が全体の傾向と異なり、絵と文字とがほぼ同数か、文字の方が多かった。平均持続時間では、文字を全く見なかった１段目２コマ目を除き、全てのコマにおいて文字の方が長かった。

表４－２　各コマ毎の視線位置（絵と文字）（第４頁）

		回数			割合		
		絵	文字	計	絵	文字	計
１段目１コマ目	見た回数　（回）	25	21	46	54%	46%	100%
	総持続時間（msec）	199	590	789	25%	75%	100%
	平均持続時間（msec）	8	28.1	17.2	—	—	—
１段目２コマ目	見た回数　（回）	5	0	5	100%	0%	100%
	総持続時間（msec）	19	0	19	100%	0%	100%
	平均持続時間（msec）	3.8	0	3.8	—	—	—
１段目３コマ目	見た回数　（回）	20	21	41	49%	51%	100%
	総持続時間（msec）	181	498	679	27%	73%	100%
	平均持続時間（msec）	9.1	23.7	16.6	—	—	—
２段目	見た回数　（回）	84	15	99	85%	15%	100%
	総持続時間（msec）	726	264	990	73%	27%	100%
	平均持続時間（msec）	8.6	17.6	10	—	—	—
３段目１コマ目	見た回数　（回）	14	4	18	78%	22%	100%
	総持続時間（msec）	106	108	214	50%	50%	100%
	平均持続時間（msec）	7.6	27	11.9	—	—	—
３段目２コマ目	見た回数　（回）	22	20	42	52%	48%	100%
	総持続時間（msec）	212	495	707	30%	70%	100%
	平均持続時間（msec）	9.6	24.8	16.8	—	—	—
４段目	見た回数　（回）	54	19	73	74%	26%	100%
	総持続時間（msec）	497	285	782	64%	36%	100%
	平均持続時間（msec）	9.2	15	10.7	—	—	—
合計	見た回数　（回）	224	100	324	69%	31%	100%
	総持続時間（msec）	1940	2240	4180	46%	54%	100%
	平均持続時間（msec）	8.7	22.4	12.9	—	—	—

3.2.3. 絵と文字とが複数ある場合

１つのコマの中に、絵、文字とも複数ずつ描かれているコマがある。これらのコマについて、複数の対象の間を視線がどのように移動していったかを分析した。

［第１頁］　絵と文字とがそれぞれ複数あるのは、３段目と４段目１コマ目であった。他のコマはすべて、絵と文字とがそれぞれ１つずつであった。

両コマとも、はじめに絵を見るのは共通していたが、その後の移動パターンは異なっていた。３段目では、文字（セリフ）とその前後に見る絵との間に関連は見られなかった。すなわち、セリフを読んだ前後にそのセリフの主を見るのではなく、無関係な人物や背景などを見ることが多かった。一方、４段目の１コマ目では、文字（セリフ）とその前後に見る絵との間に関連

が見られた。すなわち、ある人物を見てからそのセリフを読み、その人物に戻った。次に、その人物と他方の人物とを交互に見てから、他方の人物のセリフへと移るということが多かった。

［第２頁］　絵と文字とがそれぞれ複数あるのは、１段目、２段目１コマ目、２段目２コマ目、４段目２コマ目であった。

全体的に、それが絵であれ文字であれ、コマの右側から見始められ、順に左へと移っていった。別のコマからまたそのコマに戻ってきた場合も、概ね、前回の続きから左へという傾向が見られた。

絵と文字との関係を見ると、絵から文字へ、あるいは逆に文字から絵へと視線が移る場合、文字（セリフ）の前後には、その発言を行った人物、その発言が向けられた人物が見られる場合が多かった。文字から文字へと視線が移るときには、同じセリフか、会話をしている２人のセリフの間の行き来が多く見られた。絵から絵へと視線が移る場合がもっとも多く、一概にはいえないが、同じ人物の身体の部分を一つずつ見ていく場合や、今見ていたものの周辺へ視線を転ずるという傾向がみられた。

［第３頁］　絵と文字とがそれぞれ複数ずつあるのは、１段目１コマ目、１段目２コマ目、３段目１コマ目、４段目２コマ目であった。

１段目１コマ目においては、父親とその周辺の背景、父親のセリフを見ることが多かった。つまり、人物とそのセリフを見る合間に、当該人物の周辺を見るということである。このコマには、少年と少年のセリフもあるのだが、こちらはほとんど見られていなかった。少年に関係したものを見る際には、まず少年を見てからそのセリフを見、少年に戻ってから父親、少年、父親とそのセリフというふうに進んでいった。

１段目２コマ目においては描き文字があるが、この描き文字を見る前か後かには、もう一つの文字である少年のセリフを見ることが多かった。また、人物から人物へという視線の移動は多かったが、少年のセリフに関しては、その前後に父親を見ることもあれば少年を見ることもあった。

３段目１コマ目においては、少年のセリフがあるが、その内容は、無言を表す「……」であり、そのためか、少年のセリフに視線が移動したことはなかった。父親のセリフについては、父親を見た前後に見られることが多かった。人物から人物への移動はなく、お面を見た場合は、多くの場合、それを持っている少年へ、あるいは、少年から、という移動がみられた。

４段目２コマ目においては、少年に視線が移ったことはなかった。父親が見られた前後には、周辺の背景が見られることが多かった。また、父親のセリフは、父親を見た前後に見られることが多かった。少年のセリフについては、父親や、セリフ周辺の背景がその前後に見られていた。

［第４頁］　絵と文字とがそれぞれ複数ずつあるのは、１段目１コマ目、１段目３コマ目、２段目、３段目２コマ目、４段目である。

１段目１コマ目においては、セリフからセリフへの移動が多かった。また、父親のセリフの前後に絵が見られた場合は、父親や背景が見られたことが多いのに対し、次女のセリフの前後には、そのセリフが向けられた相手である父親が見られることが多かった。

1段目3コマ目においては、父親のセリフは見られなかった。少年のセリフの前後には、少年が見られることもあったが、多くの場合、そのセリフが向けられた相手である父親が見られた。

2段目においては、セリフの前後には、そのセリフの周辺の背景が見られることが多かった。背景以外では、少年のセリフの後に父親、父親のセリフの前後に父親、祖母が見られた。絵から絵への移動では、父親から祖母へ、またはその逆が多かったが、少年の前後は、背景や、長女、次女を見ることが多かった。

3段目2コマ目においては、父親のセリフが2つあるが、文としては一つながりであるにもかかわらず、この2つが続けてみられたことはなく、父親のセリフの前後には祖母が見られることが多かった。少年が見られることは少なかったが、見られた場合は、祖母と前後したことが多かった。父親は、セリフの前後か、祖母の前後に見られることが多かった。

4段目においては、セリフが3つあるが、セリフ間の移動は、祖母のセリフから父親のセリフへ移ったのが1回あっただけである。セリフの前後には絵が見られることが多かったわけである。父親のセリフの前後に祖母、少年のセリフの前後に少年というものが若干あったが、背景が見られることが多かった。絵から絵への移動についても、人物から人物へという移動は少なく、よく背景が見られた。

3.2.4. 背景と主要人物

ここでいう主要人物とは、少年、父親、祖母、長女、次女を指す。それ以外の人物は背景とみなした。

[第1頁]　背景と主要人物のいずれもがあるコマは、2段目2コマ目、2段目3コマ目、3段目、4段目1コマ目、4段目3コマ目であった。各コマにおける主要人物と背景それぞれの、見た回数と平均持続時間を**表1－3**に示す。全体では、見た回数は主要人物の方が多かったが、平均持続時間は背景の方が長かった。各コマにおいてこの傾向からはずれているのは、見た回数では、2段目2コマ目、3段目が、背景の方がよく見られていた。平均持続時間では、4段目1コマ目、4段目3コマ目が、主要人物の方が長く見られていた。

[第2頁]　背景と主要人物のいずれもがあるコマは、1段目、2段目1コマ目、4段目1コマ目、4段目2コマ目であった。各コマにおける主要人物と背景それぞれの、見た回数と平均持続時間を**表2－3**に示す。全体では、見た回数、平均持続時間とも、主要人物の方がよく見られていた。各コマにおいてこの傾向からはずれているのは、4段目1コマ目と4段目2コマ目で背景の方が多くの回数みられており、また、2段目の1コマ目と4段目の1コマ目で背景の方が平均持続時間も長かった。4段目の1コマ目では、主要人物の1人である祖母の顔があるが、1度もみられることはなかった。

[第3頁]　背景と主要人物のいずれもがあるコマは、1段目1コマ目と、4段目2コマ目であった。両コマにおける主要人物と背景それぞれの、見た回数と平均持続時間を**表3－3**に示す。見た回数、平均持続時間とも、主要人物の方がよく見られていた。しかし、4段目2コマ目は1段目1コマ目よりもより多く背景が見られており、平均持続時間は背景の方が長かった。

表１－３　各コマ毎の視線位置（背景と主要人物）（第１頁）

		回数			割合		
		背景	主要人物	計	背景	主要人物	計
２段目２コマ目	見た回数　（回）	7	2	9	78%	22%	100%
	総持続時間（msec）	161	17	178	90%	10%	100%
	平均持続時間（msec）	23	8.5	19.8	—	—	—
２段目３コマ目	見た回数　（回）	2	6	8	25%	75%	100%
	総持続時間（msec）	39	57	96	41%	59%	100%
	平均持続時間（msec）	19.5	9.5	12	—	—	—
３段目	見た回数　（回）	10	4	14	71%	29%	100%
	総持続時間（msec）	178	26	204	87%	13%	100%
	平均持続時間（msec）	17.8	6.5	14.6	—	—	—
４段目１コマ目	見た回数　（回）	1	16	17	6%	94%	100%
	総持続時間（msec）	3	172	175	2%	98%	100%
	平均持続時間（msec）	3	10.8	10.3	—	—	—
４段目３コマ目	見た回数　（回）	1	2	3	33%	67%	100%
	総持続時間（msec）	3	14	17	18%	82%	100%
	平均持続時間（msec）	3	7	5.7	—	—	—
合計	見た回数　（回）	21	30	51	41%	59%	100%
	総持続時間（msec）	384	286	670	57%	43%	100%
	平均持続時間（msec）	18.3	9.5	13.1	—	—	—

表２－３　各コマ毎の視線位置（背景と主要人物）（第２頁）

		回数			割合		
		背景	主要人物	計	背景	主要人物	計
１段目	見た回数　（回）	18	36	54	33%	67%	100%
	総持続時間（msec）	229	655	884	26%	74%	100%
	平均持続時間（msec）	12.7	18.2	16.4	—	—	—
２段目１コマ目	見た回数　（回）	10	29	39	26%	74%	100%
	総持続時間（msec）	162	239	401	40%	60%	100%
	平均持続時間（msec）	16.2	8.2	10.3	—	—	—
４段目１コマ目	見た回数　（回）	24	0	24	100%	0%	100%
	総持続時間（msec）	143	0	143	100%	0%	100%
	平均持続時間（msec）	6.0	0	6.0	—	—	—
４段目２コマ目	見た回数　（回）	19	14	33	58%	42%	100%
	総持続時間（msec）	149	141	290	51%	49%	100%
	平均持続時間（msec）	7.8	10.1	8.8	—	—	—
合計	見た回数　（回）	71	79	150	47%	53%	100%
	総持続時間（msec）	683	1035	1718	40%	60%	100%
	平均持続時間（msec）	9.6	13.1	11.5	—	—	—

表３－３　各コマ毎の視線位置（背景と主要人物）（第３頁）

		回数			割合		
		背景	主要人物	計	背景	主要人物	計
１段目１コマ目	見た回数　（回）	7	45	52	13%	87%	100%
	総持続時間（msec）	56	545	601	9%	91%	100%
	平均持続時間（msec）	8	12.1	11.6	—	—	—
４段目２コマ目	見た回数　（回）	9	11	20	45%	55%	100%
	総持続時間（msec）	110	113	223	49%	51%	100%
	平均持続時間（msec）	12.2	10.3	11.2	—	—	—
合計	見た回数　（回）	16	56	72	22%	78%	100%
	総持続時間（msec）	166	658	824	20%	80%	100%
	平均持続時間（msec）	10.4	11.8	11.4	—	—	—

［第４頁］　背景と主要人物のいずれもがあるコマは、１段目１コマ目と、２段目、４段目であった。各コマにおける主要人物と背景それぞれの、見た回数と平均持続時間を**表４－３**に示す。見た回数は、全体、各コマとも主要人物の方が多かった。平均持続時間は、全体では背景の方が長かったが、各コマ毎に見ると、４段目を除いて主要人物の方が長かった。

表４－３　各コマ毎の視線位置（背景と主要人物）（第４頁）

		回数			割合		
		背景	主要人物	計	背景	主要人物	計
１段目１コマ目	見た回数　（回）	8	17	25	32%	68%	100%
	総持続時間（msec）	50	149	199	25%	75%	100%
	平均持続時間（msec）	6.3	8.8	8.0	—	—	—
２段目	見た回数　（回）	32	52	84	38%	62%	100%
	総持続時間（msec）	249	477	726	34%	66%	100%
	平均持続時間（msec）	7.8	9.2	8.6	—	—	—
４段目	見た回数　（回）	25	29	54	46%	54%	100%
	総持続時間（msec）	286	211	497	58%	42%	100%
	平均持続時間（msec）	11.4	7.3	9.2	—	—	—
合計	見た回数　（回）	65	98	163	40%	60%	100%
	総持続時間（msec）	585	837	1422	41%	59%	100%
	平均持続時間（msec）	9.0	8.5	8.7	—	—	—

３.３．コマ間での視線の移動

被験者は、各コマにおいて、対象から対象へと視線を転じてそのコマを読んだが、そのコマの次には別のコマへと移動し、これを繰り返すことによって、当該頁を読んでいった。ここでは、それぞれの頁の各コマ間の移動のうち、どのコマからどのコマへ移動するかについて検討した。

なお、第１頁と第４頁とにおいては、通読回数が２回であったが、ここではそれらを区別せず、全体の結果を示す。

［第１頁］コマ間での視線の移動は47回あった。このうち、後戻りしたのは20回であった。どのコマからどのコマへ移動したのか、連続した２コマについて**表１－４**に示す。順向の場合も逆向の場合も、隣接したコマへ移動することが多かった。隣接したコマ以外への移動で特に多かったのは、順向では、２段目１コマ目から３段目へであり、逆向では、３段目から２段目２コマ目へ、４段目３コマ目から３段目へであった。

表１－４　連続する２コマ間での視線の移動（第１頁）

（回）

		後　　続								合計
		1-1	2-1	2-2	2-3	3	4-1	4-2	4-3	
先行	1-1	---	2							2
	2-1		---	2		2				4
	2-2	1		---	3	2	1			7
	2-3			2	---	2				4
	3		2	3	1	---	1		1	8
	4-1						---	8		8
	4-2					1	6	---	3	10
	4-3					2		2	---	4
合計		1	4	7	4	9	8	10	4	47

［第２頁］コマ間での視線の移動は50回あった。このうち、後戻りしたのは25回であった。どのコマからどのコマへ移動したのか、連続した２コマについて**表２－４**に示す。順向の場合も逆向の場合も、隣接したコマへ移動することが多かった。隣接したコマ以外への移動で特に多かったのは、順向では、２段目１コマ目から３段目へ、３段目から４段目２コマ目へであり、逆向では、２段目２コマ目から１段目へ、３段目から２段目１コマ目へ、４段目２コマ目から３段目へ、４段目３コマ目から３段目へなどであった。

［第３頁］　コマ間の視線の移動は、72回であり、このうち後戻りしたのは、34回であった。どのコマからどのコマへ移動したのか、連続した２コマについて**表３－４**に示す。

順向の場合も逆向の場合も、隣接したコマへ移動することが多かった。隣接したコマ以外への移動で特に多かったのは、順向では、３段目１コマ目から４段目１コマ目へであり、逆向では２段目から１段目１コマ目へ、３段目２コマ目から２段目へ、４段目１コマ目から３段目１コマ目へ、４段目２コマ目から３段目１コマ目へなどであった。

［第４頁］　コマ間の視線の移動は、75回であり、このうち後戻りしたのは、34回であった。どのコマからどのコマへ移動したのか、連続した２コマについて**表４－４**に示す。

順向の場合も逆向の場合も、隣接したコマへ移動することが多かった。隣接したコマ以外への移動で特に多かったのは、順向では、１段目１コマ目から２段目へ、２段目から３段目２コ

マ目へ、3段目1コマ目から4段目へであり、逆向では、2段目から1段目1コマ目へ、3段目2コマ目から2段目へなどであった。

表2－4　連続する2コマ間での視線の移動（第2頁）

（回）

		後続								合計
		1-1	2-1	2-2	2-3	3	4-1	4-2	4-3	
先行	1-1		---	3	2	1				6
	2-1		3	---	2	6		1		12
	2-2		2	1	---	1				4
	3			8		---	2	3	1	14
	4-1					3	---	2		5
	4-2		1			2	3	---	1	7
	4-3					1		1	---	2
合計			6	12	4	14	5	7	2	50

表3－4　連続する2コマ間での視線の移動（第3頁）

（回）

		後続								合計
		1-1	2-1	2-2	2-3	3	4-1	4-2	4-3	
先行	1-1	---	6	3						9
	1-2	5	---	5	1					11
	2-1	4	6	---	2	2			1	15
	3-1			1	---	2	5	3		11
	3-2			4		---	1	1	1	7
	4-1				4		---	3		7
	4-2				4	1	1	---	2	8
	4-3			1		2		1	---	4
合計		9	12	14	11	7	7	8	4	72

表4－4　連続する2コマ間での視線の移動（第4頁）

（回）

		後続								合計
		1-1	2-1	2-2	2-3	3	4-1	4-2	4-3	
先行	1-1		---	2	1	4				7
	1-2		2	---	2	1				5
	1-3			2	---	7		1		10
	2-1		4	1	7	---	5	4		21
	3-1					3	---	2	3	8
	3-2					4		---	9	13
	4-1					2	3	6	---	11
合計			6	5	10	21	8	13	12	75

3.4．内容の再生

読み終わった後の口頭による内容の再生は以下の通りであった。

「主人公の男の子がいて、男の子のお父さんがお母さんの葬式に、いや、お母さんのお見舞いにいって、主人公とお父さんとでお見舞いにいって、それで、お母さんにお父さんは憎まれ口をたたかれていて、それで、お父さんは、それで結局お母さんは死んで、お父さんと葬式に行くんですけど、お父さんはいつもと変わらぬ表情でいるから、他のきょうだいの人とかから能面みたいといわれて、それで息子はそのお父さんの顔はお面だと、作ってる顔だと思って、それで、はずしてあげようと、はずして違う顔にしてあげようと思ったけど、お父さんはそれ以外の顔がなくて、そんでお父さんは顔がないってことは２人の秘密にしようってなって、お母さん、それで、お父さんとお葬式が終わった帰りに、おばあさんの霊が父親の背中についてることにこどもが気付いて、おばあさんはまだいるねってことをお父さんに話したら、お父さんもわかっていたようで、一生かけておばあさんに復讐するんだよっていって、そしたらこどもが、もうお父さんがそうやってお母さんに逆らうことによって、お父さんも自分の顔ができてくるんだねっていって、で、終わり。」

［第１頁］上述した再生内容のうち１頁目と関係しているのは、「主人公の男の子がいて、男の子のお父さんがお母さんの葬式に、いや、お母さんのお見舞いにいって、主人公とお父さんとでお見舞いにいって、それで、お母さんにお父さんは憎まれ口をたたかれていて、それで、お父さんは、」の部分であった。

［第２頁］上述した再生内容のうち２頁目と関係しているのは、「それで結局お母さんは死んで、お父さんと葬式に行くんですけど、お父さんはいつもと変わらぬ表情でいるから、他のきょうだいの人とかから能面みたいといわれて、」の部分であった。

［第３頁］上述した再生内容のうち３頁目と関係しているのは、「それで息子はそのお父さんの顔はお面だと、作ってる顔だと思って、それで、はずしてあげようと、はずして違う顔にしてあげようと思ったけど、お父さんはそれ以外の顔がなくて、そんでお父さんは顔がないってことは２人の秘密にしようってなって、」の部分であった。

［第４頁］上述した再生内容のうち４頁目と関係しているのは、「お母さん、それで、お父さんとお葬式が終わった帰りに、おばあさんの霊が父親の背中についてることにこどもが気付いて、おばあさんはまだいるねってことをお父さんに話したら、お父さんもわかっていたようで、一生かけておばあさんに復讐するんだよっていって、そしたらこどもが、もうお父さんがそうやってお母さんに逆らうことによって、お父さんも自分の顔ができてくるんだねっていって、で、終わり。」の部分であった。

3.5．１回目と２回目との相違

第１頁と第４頁とは、一度最後のコマまで読んでから、また、最初のコマに戻り、読み進めた。ここでは、この２頁について、１回目の読みと２回目の読みとでどのような違いがあったかについて検討した。

3.5.1. 絵と文字とではどちらを先に見るか

[第１頁]　１回目と２回目の読みそれぞれについて、絵と文字とのどちらを先に見るかを**表１－１－１**に示す。１回目、２回目とも、大きな違いはなく、全体の傾向とほぼ同じであった。

表１－１－１（A）　コマ内で最初に見る対象（１回目）（第１頁）

	絵		文字		合計	初見
	回数	割合	回数	割合	回数	
２段目１コマ目	2	50%	2	50%	4	絵
２段目２コマ目	4	80%	1	20%	5	絵
２段目３コマ目	3	100%	0	0%	3	絵
３段目	2	33%	4	67%	6	文字
４段目１コマ目	1	20%	4	80%	5	絵
４段目２コマ目	2	33%	4	67%	6	文字
４段目３コマ目	2	67%	1	33%	3	絵
全体	16	47%	18	53%	34	絵：71%

表１－１－１（B）　コマ内で最初に見る対象（２回目）（第１頁）

	絵		文字		合計	初見
	回数	割合	回数	割合	回数	
２段目１コマ目	0	0%	0	0%	0	—
２段目２コマ目	2	100%	0	0%	2	絵
２段目３コマ目	1	100%	0	0%	1	絵
３段目	1	33%	2	67%	3	文字
４段目１コマ目	0	0%	3	100%	3	文字
４段目２コマ目	2	50%	2	50%	4	絵
４段目３コマ目	1	100%	0	0%	1	絵
全体	7	50%	7	50%	14	絵：67%

[第４頁]　１回目と２回目の読みそれぞれについて、絵と文字とのどちらを先に見るかを**表４－１－１**に示す。２回目は、１回しか見られなかったコマが多かったが、１回目と大きな違いはなかった。異なるのは１段目１コマ目で、１回目は絵から見られ始めたが、２回目は、文字から見られ始めた。

表４－１－１（A）　コマ内で最初に見る対象（１回目）（第４頁）

	絵		文字		合計	初見
	回数	割合	回数	割合	回数	
１段目１コマ目	4	67%	2	33%	6	絵
１段目２コマ目	3	100%	0	0%	3	絵
１段目３コマ目	2	22%	7	78%	9	文字
２段目	19	95%	1	5%	20	絵
３段目１コマ目	4	57%	3	43%	7	絵
３段目２コマ目	5	42%	7	58%	12	文字
４段目	4	36%	7	64%	11	文字
全体	41	60%	27	40%	68	絵：57%

表４－１－１（B）　コマ内で最初に見る対象（２回目）（第４頁）

	絵		文字		合計	初見
	回数	割合	回数	割合	回数	
１段目１コマ目	0	0%	1	100%	1	文字
１段目２コマ目	2	100%	0	0%	2	絵
１段目３コマ目	0	0%	1	100%	1	文字
２段目	1	100%	0	0%	1	絵
３段目１コマ目	1	100%	0	0%	1	絵
３段目２コマ目	0	0%	1	100%	1	文字
４段目	0	0%	1	100%	1	文字
全体	4	50%	4	50%	8	絵：43%

3.5.2. 絵と文字とではどちらをよく見ているか

［第１頁］　１回目と２回目の読みそれぞれについて、絵と文字それぞれの、見た回数と平均持続時間を**表１－２－１**に示す。２回目の読みでは、文字が見られる回数が少なくなり、まったく文字を見なかったコマもあった。また、平均持続時間についても、やはり絵よりも文字の方が長いものの、その差は１回目よりもかなり小さくなった。

［第４頁］　１回目と２回目の読みそれぞれについて、絵と文字それぞれの、見た回数と平均持続時間を**表４－２－１**に示す。２回目の読みでは、全体として文字が見られる割合が１回目の読みよりも増加した。また、１段目３コマ目では、絵を見た回数と文字を見た回数が、１回目と２回目とでは逆転した。平均持続時間については、絵、文字とも２回目の方が、全体としても短く、各コマにおいても短くなったコマが多かった。しかし、１段目１コマ目では絵、文字ともに長くなり、２段目では絵は長く、文字は短くなった。絵の平均持続時間が増加したのは、他に３段目１コマ目、３段目２コマ目であった。特に、３段目２コマ目では著しかった。

表１－２－１　１回目と２回目のコマ毎の視線位置（絵と文字）（第１頁）

		1回目			2回目			合計		
		絵	文字	計	絵	文字	計	絵	文字	計
1段目	見た回数（回）	/	3	3	/	0	0	/	3	3
	総持続時間(msec)	/	51	51	/	0	0	/	51	51
	平均持続時間(msec)	/	17	17	/	0	0	/	17	17
2段目1コマ目	見た回数（回）	6	4	10	0	0	0	6	4	10
	総持続時間(msec)	102	209	311	0	0	0	102	209	311
	平均持続時間(msec)	17	52.3	31.1	0	0	0	17	52.3	31.1
2段目2コマ目	見た回数（回）	7	2	9	2	0	2	9	2	11
	総持続時間(msec)	95	23	118	83	0	83	178	23	201
	平均持続時間(msec)	13.6	11.5	13.1	41.5	0	41.5	19.8	11.5	18.3
2段目3コマ目	見た回数（回）	5	2	7	3	2	5	8	4	12
	総持続時間(msec)	50	134	184	46	80	126	96	214	310
	平均持続時間(msec)	10	67	26.3	15.3	40	25.2	12	53.5	25.8
3段目	見た回数（回）	11	17	28	3	7	10	14	24	38
	総持続時間(msec)	194	598	792	10	78	88	204	676	880
	平均持続時間(msec)	17.6	35.2	28.3	3.3	11.1	8.8	14.6	28.2	23.2
4段目1コマ目	見た回数（回）	11	6	17	6	3	9	17	9	26
	総持続時間(msec)	128	152	280	47	27	74	175	179	354
	平均持続時間(msec)	11.6	25.3	16.5	7.8	9	8.2	10.3	19.9	13.6
4段目2コマ目	見た回数（回）	6	8	14	9	3	12	15	11	26
	総持続時間(msec)	55	393	448	67	86	153	122	479	601
	平均持続時間(msec)	9.2	49.1	32	7.4	28.7	12.8	8.1	43.5	23.1
4段目3コマ目	見た回数（回）	2	2	4	1	0	1	3	2	5
	総持続時間(msec)	7	13	20	10	0	10	17	13	30
	平均持続時間(msec)	3.5	6.5	5	10	0	10	5.7	6.5	6
合計	見た回数（回）	48	44	92	24	15	39	72	59	131
	総持続時間(msec)	631	1573	2204	263	271	534	894	1844	2738
	平均持続時間(msec)	13.1	35.8	24.0	11.0	18.1	13.7	12.4	31.3	20.9

表４－２－１　１回目と２回目のコマ毎の視線位置（絵と文字）（第４頁）

		1回目			2回目			合計		
		絵	文字	計	絵	文字	計	絵	文字	計
1段目1コマ目	見た回数（回）	23	18	41	2	3	5	25	21	46
	総持続時間(msec)	182	486	668	17	104	121	199	590	789
	平均持続時間(msec)	7.9	27	16.3	8.5	34.7	24.2	8.0	28.1	17.2
1段目2コマ目	見た回数（回）	3	0	3	2	0	2	5	0	5
	総持続時間(msec)	13	0	13	6	0	6	19	0	19
	平均持続時間(msec)	4.3	0	4.3	3	0	3	3.8	0	3.8
1段目3コマ目	見た回数（回）	18	15	33	2	6	8	20	21	41
	総持続時間(msec)	174	439	613	7	59	66	181	498	679
	平均持続時間(msec)	9.7	29.3	18.6	3.5	9.8	8.3	9.1	23.7	16.6
2段目	見た回数（回）	71	13	84	13	2	15	84	15	99
	総持続時間(msec)	582	244	826	144	20	164	726	264	990
	平均持続時間(msec)	8.2	18.8	9.8	11.1	10	10.9	8.6	17.6	10
3段目1コマ目	見た回数（回）	9	4	13	5	0	5	14	4	18
	総持続時間(msec)	46	108	154	60	0	60	106	108	214
	平均持続時間(msec)	5.1	27	11.8	12	0	12	7.6	27	11.9
3段目2コマ目	見た回数（回）	20	18	38	2	2	4	22	20	42
	総持続時間(msec)	205	385	590	7	110	117	212	495	707
	平均持続時間(msec)	10.3	21.4	15.5	3.5	55	29.3	9.6	24.8	16.8
4段目	見た回数（回）	45	14	59	9	5	14	54	19	73
	総持続時間(msec)	443	228	671	54	57	111	497	285	782
	平均持続時間(msec)	9.8	16.3	11.4	6	11.4	7.9	9.2	15	10.7
合計	見た回数（回）	189	82	271	35	18	53	224	100	324
	総持続時間(msec)	1645	1890	3535	295	350	645	1940	2240	4180
	平均持続時間(msec)	8.7	23	13	8.4	19.4	12.2	8.7	22.4	12.9

3.5.3. 絵と文字とが複数ある場合

[第１頁]　３段目において、１回目は文字から文字への移動が多く、絵は、文字を見る合間に背景が見られることが多かった。人物が見られるときは、セリフのない少年が見られた。これは、２回目も同様であった。

４段目１コマ目において、１回目は文字から文字への移動は少なく、絵とその人物のセリフ間の移動が多かった。また、絵から絵への移動では、２人の登場人物を交互に見ることが多かった。２回目は、少年は見られず、父親のセリフから父親への移動が多く、間に背景も見られた。

[第４頁]　１段目１コマ目において、１回目は、文字の前後には、そのセリフを発した人物か、それが向けられた人物が見られることが多かった。その間、背景も見られた。２回目では、ある人物のセリフから、それに対する別の人物のセリフへの移動が見られ、さらに、そのセリフが向けられた人物、そのセリフと進んでいった。

１段目３コマ目において、１回目は、文字の前後にそのセリフが向けられた人物を見ることが多かったが、この傾向は２回目も同様であった。

２段目において、１回目では文字とそれに関係した人物が続いてみられることは少なく、背景が見られることが多かったが、２回目においても同様であった。

３段目２コマ目において、１回目では父親のセリフの前後には父親や祖母が見られることが目立ち、祖母と少年の間の移動が多かった。２回目でも父親のセリフの後には、祖母か父親が見られた。

４段目において、１回目は人物から人物への移動の場合、その合間に背景が見られることが多く、文字については、背景との移動の他、父親のセリフの前後は祖母が見られたが、少年のセリフの前後は、少年が見られた。２回目でも、人物や文字の前後には背景が見られることがやはり多かったが、父親のセリフと祖母の間の移動も見られた。

3.5.4. 背景と主要人物

[第１頁]　１回目と２回目の読みそれぞれについて、背景と主要人物それぞれの見た回数と平均持続時間を**表１－３－１**に示す。見た回数については、１回目、２回目とも主要人物の方が多いが、平均持続時間は、主要人物では、２回目で減少したのに対し、背景では２回目で増加した。各コマ毎に見ると、２段目３コマ目について、１回目では全く見られなかった背景が、２回目では主要人物よりも多く見られていた。また、３段目はこの逆で、１回目は背景が多く見られていたが、２回目では逆転した。

[第４頁]　１回目と２回目の読みそれぞれについて、背景と主要人物それぞれの見た回数と平均持続時間を**表４－３－１**に示す。見た回数については、１回目、２回目とも主要人物の方が多いが、平均持続時間は、主要人物では、２回目で減少したのに対し、背景では２回目で増加した。各コマ毎では、２段目において、どちらの回でも主要人物の方が多くの回数見られたが、その差は２回目の方が小さく、また、平均持続時間については、主要人物は２回目で減少したのに対し、背景は２回目で大幅に増加した。また、４段目では、見た回数、平均持続時間とも、１回目と２回目とで、背景と主要人物双方において逆転した。

表１－３－１（A）　各コマ毎の視線位置（背景と主要人物）（１回目）（第１頁）

		回数			割合		
		背景	主要人物	計	背景	主要人物	計
２段目２コマ目	見た回数　（回）	5	2	7	71%	29%	100%
	総持続時間（msec）	78	17	95	82%	18%	100%
	平均持続時間（msec）	15.6	8.5	13.6	—	—	—
２段目３コマ目	見た回数　（回）	0	5	5	0%	100%	100%
	総持続時間（msec）	0	50	50	0%	100%	100%
	平均持続時間（msec）	0	10	10	—	—	—
３段目	見た回数　（回）	9	2	11	82%	18%	100%
	総持続時間（msec）	174	20	194	90%	10%	100%
	平均持続時間（msec）	19.3	10	17.6	—	—	—
４段目１コマ目	見た回数　（回）	0	11	11	0%	100%	100%
	総持続時間（msec）	0	128	128	0%	100%	100%
	平均持続時間（msec）	0	11.6	11.6	—	—	—
４段目３コマ目	見た回数　（回）	1	1	2	50%	50%	100%
	総持続時間（msec）	3	4	7	43%	57%	100%
	平均持続時間（msec）	3	4	3.5	—	—	—
合計	見た回数　（回）	15	21	36	42%	58%	100%
	総持続時間（msec）	255	219	474	54%	46%	100%
	平均持続時間（msec）	17.0	10.4	13.2	—	—	—

表１－３－１（B）　各コマ毎の視線位置（背景と主要人物）（２回目）（第１頁）

		回数			割合		
		背景	主要人物	計	背景	主要人物	計
２段目２コマ目	見た回数　（回）	2	0	2	100%	0%	100%
	総持続時間（msec）	83	0	83	100%	0%	100%
	平均持続時間（msec）	41.5	0	41.5	—	—	—
２段目３コマ目	見た回数　（回）	2	1	3	67%	33%	100%
	総持続時間（msec）	39	7	46	85%	15%	100%
	平均持続時間（msec）	19.5	7	15.3	—	—	—
３段目	見た回数　（回）	1	2	3	33%	67%	100%
	総持続時間（msec）	4	6	10	40%	60%	100%
	平均持続時間（msec）	4	3	3.3	—	—	—
４段目１コマ目	見た回数　（回）	1	5	6	17%	83%	100%
	総持続時間（msec）	3	44	47	6%	94%	100%
	平均持続時間（msec）	3	8.8	7.8	—	—	—
４段目３コマ目	見た回数　（回）	0	1	1	0%	100%	100%
	総持続時間（msec）	0	10	10	0%	100%	100%
	平均持続時間（msec）	0	10	10.0	—	—	—
合計	見た回数　（回）	6	9	15	40%	60%	100%
	総持続時間（msec）	129	67	196	66%	34%	100%
	平均持続時間（msec）	21.5	7.4	13.1	—	—	—

表４－３－１（A）　各コマ毎の視線位置（背景と主要人物）（１回目）（第４頁）

		回数			割合		
		背景	主要人物	計	背景	主要人物	計
１段目１コマ目	見た回数　（回）	8	15	23	35%	65%	100%
	総持続時間（msec）	50	132	182	27%	73%	100%
	平均持続時間（msec）	6.3	8.8	7.9	—	—	—
２段目	見た回数　（回）	26	45	71	37%	63%	100%
	総持続時間（msec）	158	424	582	27%	73%	100%
	平均持続時間（msec）	6.1	9.4	8.2	—	—	—
４段目	見た回数　（回）	20	25	45	44%	56%	100%
	総持続時間（msec）	259	184	443	58%	42%	100%
	平均持続時間（ msec）	13.0	7.4	9.8	—	—	—
合計	見た回数　（回）	54	85	139	39%	61%	100%
	総持続時間（msec）	467	740	1207	39%	61%	100%
	平均持続時間（msec）	8.6	8.7	8.7	—	—	—

表４－３－１（B）　各コマ毎の視線位置（背景と主要人物）（２回目）（第４頁）

		回数			割合		
		背景	主要人物	計	背景	主要人物	計
１段目１コマ目	見た回数　（回）	0	2	2	0%	100%	100%
	総持続時間（msec）	0	17	17	0%	100%	100%
	平均持続時間（msec）	0	8.5	8.5	—	—	—
２段目	見た回数　（回）	6	7	13	46%	54%	100%
	総持続時間（msec）	91	53	144	63%	37%	100%
	平均持続時間（msec）	15.2	7.6	11.1	—	—	—
４段目	見た回数　（回）	5	4	9	56%	44%	100%
	総持続時間（msec）	27	27	54	50%	50%	100%
	平均持続時間（msec）	5.4	6.8	6.0	—	—	—
合計	見た回数　（回）	11	13	24	46%	54%	100%
	総持続時間（msec）	118	97	215	55%	45%	100%
	平均持続時間（msec）	10.7	7.5	9.0	—	—	—

3.5.5. コマ間での視線の移動

［第１頁］　コマ間での視線の移動のうち、どのコマからどのコマへ移動したのか、連続した２コマについて**表１－４－１**に示す。コマ間での視線の移動は、１回目の読みでは33回、２回目の読みでは13回であった。このうち後戻りしたのは、１回目の読みでは13回、２回目の読みでは６回であった。順向の場合も逆向の場合も、隣接したコマへ移動することが多かったが、これは、１回目の読み、２回目の読みとも共通である。隣接したコマ以外への移動で特に多かったのは、１回目の読みの順向では、２段目１コマ目から３段目へであり、逆向では、３段目から２段目１コマ目へ、３段目から２段目２コマ目へ、４段目３コマ目から３段目へであった。２回目の読みでは順向の２段目１コマ目から３段目へであった。

表１－４－１（A）　連続する２コマ間での視線の移動（１回目）（第１頁）

（回）

		後続								合計
		1-1	2-1	2-2	2-3	3	4-1	4-2	4-3	
先行	1-1	---	2							2
	2-1		---	2		2				4
	2-2	1		---	3		1			5
	2-3			1	---	2				3
	3		2	2		---			1	5
	4-1						---	5		5
	4-2						4	---	2	6
	4-3					2		1	---	3
合計		1	4	5	3	6	5	6	3	33

表１－４－１（B）　連続する２コマ間での視線の移動（２回目）（第１頁）

（回）

		後続								合計
		1-1	2-1	2-2	2-3	3	4-1	4-2	4-3	
先行	1-1	---								0
	2-1		---							0
	2-2			---		2				2
	2-3			1	---					1
	3			1		---	1			2
	4-1						---	3		3
	4-2					1	2	---	1	4
	4-3							1	---	1
合計		0	0	2	0	3	3	4	1	13

［第４頁］　コマ間での視線の移動のうち、どのコマからどのコマへ移動したのか、連続した２コマについて**表４－４－１**に示す。コマ間での視線の移動は、１回目の読みでは67回、２回目の読みでは7回であった。このうち後戻りしたのは、１回目の読みでは32回、２回目の読みでは１回であった。順向の場合も逆向の場合も、隣接したコマへ移動することが多かったが、これは、１回目の読み、２回目の読みとも共通である。隣接したコマ以外への移動で特に多かったのは、１回目の読みの順向では、１段目１コマ目から２段目へ、２段目から３段目２コマ目へ、３段目１コマ目から４段目へであり、逆向では、２段目から１段目１コマ目へ、３段目２コマ目から２段目へ、４段目から２段目１コマ目へ、４段目から３段目１コマ目へであった。２回目の読みでは順向の１段目２コマ目から２段目へであった。

表４－４－１（A）　連続する２コマ間での視線の移動（１回目）（第４頁）　（回）

		後続							合計
		1-1	1-2	1-3	2-1	3-1	3-2	4-1	
先行	1-1	---	1	1	4				6
	1-2	2	---	1					3
	1-3		1	---	7		1		9
	2-1	3	1	7	---	4	4		19
	3-1				3	---	1	3	7
	3-2				4		---	8	12
	4-1				2	3	6	---	11
合計		5	3	9	20	7	12	11	67

表４－４－１（B）　連続する２コマ間での視線の移動（２回目）（第４頁）　（回）

		後続							合計
		1-1	1-2	1-3	2-1	3-1	3-2	4-1	
先行	1-1	---	1						1
	1-2		---	1	1				2
	1-3		1	---					1
	2-1				---	1			1
	3-1					---	1		1
	3-2						---	1	1
	4-1							---	0
合計		0	2	1	1	1	1	1	7

4．考察

4.1．全体の流れ

4頁とも基本的には、頁の上から下へ、右から左へと段、コマの順序通りに読みすすめられた。第1頁と第4頁とは、一度頁の最後まで読んでから、再び1コマ目から読み返すということが行われ、第2頁では、後半、コマを逆にたどる読み上がりが見られた。所要時間は第4頁が他の頁よりも長くかかったが、他の頁は大体50秒強とほぼ同じであった。第4頁は1回目の読みの所用時間が50秒強と他の頁と同じであり、2回目の読みの分だけ長くかかった。

各頁は、コマ割りの仕方など、外的な頁の構成が似通っている。はじめに頁全体を一見した際に特に目を引くコマなどはない。また、段がはっきりしており、どちらのコマを先に読むべきか迷うようなこともない。であれば、頁の右上から左下へとコマの順序通りに読んでいくことは当然と思われる。

一般に、マンガのある頁を読む際、その読み進めていくための方略として、いくつかのパターンが考えられる。まず、本実験における本被験者のように、コマを1つずつ、順序に従って読んでいくタイプ、あるいは、はじめは文字だけを追い、それから絵を見るタイプ、逆に、まず絵から入って文字は後から読むというタイプ、全体的にざっとその頁を見渡し、それから各コマを読み進んでいくタイプなどである。あるマンガの頁が与えられたときにどの方略を選択するかは個人差もあるだろうが、対象となるマンガの性質によるところも大きいのではないだろうか。例えば、物語性の強いストーリーマンガならば、まず文字を追うかもしれない。同じくストーリーがあるものでも、動きの激しいスポーツものであるならば、絵が先行するかもしれない。絵自体が美しかったり、変わった構成の頁であるならば、まず全体を眺めるであろう。また、はじめの頁であるか、途中の頁であるかによって、あるいは、連載の途中の回であるか、初めてみるものであるかによっても異なってくることが予想される。

本実験で用いた材料は読み切り作品であり、ストーリー性が強い。各頁がそれぞれ、起承転結に対応していると考えられ、淡々と話が進められていく。絵にも大きな動きはない。先述したとおり、頁の構成も、コマの順序が大変わかりやすいものとなっている。このようなことから、その頁に特に目立った特徴がない場合、まずはコマの順序に沿って読んでいくということが方略として選ばれる可能性が考えられる。ただし、新しい頁を見たときに、その頁のコマがどういう順序で並んでいるかをまず見抜く必要がある。本材料はそれがわかりやすいといえるものの、コマの流れがすぐにわかるのはなぜだろうか。最初の一瞥でわかっていなければ、コマの順序に従って読むということは不可能である。コマの進め方については、読者と作者との間に暗黙の了解が存在し、読者は経験によってそれを身につけるものと思われる。

さて、第1頁と第4頁とは、全体の通読回数が2回であり、第2頁は読み返すかわりに読みあがりがあった。第3頁だけが1回の通読のみで終わった。このような読み方の差は、各頁の構成、内容によると考えられる。

頁全体を読むのに要した時間は、第1頁、第2頁、第3頁でほとんど同じであった。第4頁については、1回目の読みの所要時間が他の3頁とほぼ同じであった。一方、各頁の、対象を見た回数の合計は、後の頁になるほど増加し、全体の平均持続時間は、第1頁、第2頁、第4

頁、第３頁の順に長くなった。すなわち、はじめの頁ほど、１つ１つの対象をじっくり見ているといえる。また、コマ間の視線の移動についても第１頁と第２頁、第３頁と第４頁とがほぼ同数であり、前半より後半の方が移動回数が多かった。

これらのことから、各頁ごとの読み方略の違いがあげられる。

第１頁では、１回目の通読を補うものとして２回目の通読が行われたものと考えられる。第１頁は物語の発端であると同時に実験の始まりでもある。おそらく被験者にとって、コンピュータのモニタ上で漫画を読むということは、余りなじみのない事態であろう。ストーリー上も、お見舞いに行った父親と祖母の一つながりの会話が主な内容であり、今後の展開の基礎となるところが語られる。従って、各対象を時間をかけて見ると同時に、確認の意味で２回目の読みがなされたと考えられる。

第２頁では、はじめからじっくりと読んだので、２回目の読みが必要なかった、あるいは、読み直しをしないですむように読んでいったのであろう。これには、実験事態への慣れもあると考えられる。第２頁は第１頁を受けて、第１頁で暗示された親子関係に関する会話があり、この前半部分は絵も文字も密度が濃い。またストーリーの進展、すなわち祖母の死が示されるが、その前に頁の途中で時間的飛躍がある。こうしたことが、第２頁についてははじめからよく読んでいくことを促し、再度冒頭へ戻って読み直すということを妨げたのではないだろうか。ただし、次の頁に移る前の最後の部分での読み上がりは、第１頁の２回目の読みの代わりになっている可能性も考えられる。

第３頁は、１回で読み終わった。所用時間は第１頁、第２頁とほとんど変わらなかったが、見た回数の総計、コマ間の移動は増加している。一方、全体の平均持続時間は短かった。つまり、最初のコマから最後のコマへ読み進んでいく中で、それぞれのコマを何度も見たため、再度、通して読み直すという必要がなかったと考えられる。これには、第３頁の内容も関係していると思われる。第３頁では、第２頁の最後の２コマを受けて、少年が父親の「お面」をはずしてみると、そこには顔がなかったということが中心になっている。話の筋はつかみやすいといえる。また、第１頁、第２頁と比べると、文字も少なく、背景など絵からの情報も少ない。従って、１回の読みの中で色々なコマを見比べることはあっても、改めて最初のコマから読み直す必要はなかったのであろう。

第４頁では、再び読み直しが行われた。しかし、第４頁のそれは、第１頁のものとは性質を異にしたものと思われる。まず、全体の所要時間に対する２回目の所要時間が第１頁よりも短い。同様のことは、見た回数やコマ間の移動についてもいえる。コマ間の移動については、第４頁では、コマの逆戻りがほとんどなかった。第４頁は、物語の結末である。同時に実験の終盤でもある。従って、第４頁を読む際には、それまでの頁を読んできた経験などから、効率的な読み方を知り、それを実行したものと思われる。本来ならば、１回だけの読みでもよかったところを、物語の最後ということで、確認のために軽く２回目を読んだと考えられよう。

4.2. コマ内での視線の移動

4.2.1. 絵と文字とではどちらを先に見るか

全頁を通じて、ほとんどのコマが絵と文字とから構成されているが、各コマにおいて、絵と

文字のどちらを先に見るかについては、各頁ごとに違いが現れた。

初めて当該のコマに視線が移ったとき、絵と文字のどちらを見るかについては、第3頁だけが、全てのコマで絵が先であったが、他のページでは、絵を先に見るコマ、文字を先に見るコマがあり、どのページでも、絵を先に見るコマがほぼ6～7割を占めた。

最初に絵を見るコマが多かったわけだが、これらのコマの一般的な特徴として、以下の点が挙げられる。第一に、絵の密度が濃く、絵から得られる情報が比較的多いこと、第二に、それまでの話の流れを受けたコマであることである。一方、文字から先に見るコマは、相対的に文字からの情報が多いこと、話の転換場面であることなどの特徴がある。

実験時、被験者は1つのコマを1度だけ読むわけではなく、視線が同じコマに何度か戻ってくる場合が多い。そのような場合、そのコマを絵から見始めるか、文字から見始めるかについても、各頁、コマによって違いがみられた。第1頁は、絵から見始めることが多いコマと文字から見始めることが多いコマとが同数であり、第2頁は文字から見始めることが多いコマの方が多かった、第3頁、第4頁は、絵から見始めることが多いコマの方が多かった。特に第3頁は、文字から見始めることが多いコマはなく、最大でも、絵から見始めるのと同数であった。また全体的に、初見が絵であったコマはその後も絵から見始めることが多く、初見が文字であったコマは、その後も文字から見始めることが多いようであった。従って、絵からの情報が多いコマは絵から見始めることが多く、文字からの情報が多いコマは文字から見始めることが多いといえる。さらに、文字から見始めることが多いコマは、物語の進展上、場面が変わったり、新しいエピソードが導入されたりという場合が多い。そのために文字による説明が必要となり、文字から得られる情報量が増えるともいえる。反面、絵から見始められることが多いコマは、それまでの物語を受けて進展させたり、展開させたりというコマであるようである。文字から得られる情報も新しいものである場合は少なく、相対的に絵からの情報が多くなるとも考えられる。

4.2.2. 絵と文字とではどちらをよく見ているか

絵だけのコマ、文字だけのコマを除いて、絵と文字とではどちらをよく見ているか、その見た回数と、1回あたりの平均持続時間を検討すると、第3頁を除く多くのコマで、見た回数は絵の方が多く、平均持続時間は文字の方が長いという傾向がみられた。つまり、絵を見る場合、あちらこちらと視線を動かすものの、1つのところを時間をかけてじっくり見るということはないが、文字を見る場合は、1つ1つのセリフなどを時間をかけて見ていくといえる。これは、絵と文字それぞれの特性によるものだろう。

絵と文字の見方の違いは、各コマ毎に検討するとより明らかになる。絵の場合、1つのコマに人物や背景が細かく描き込まれている場合ほど、見た回数が多くなっている。多くのものが描き込まれているということは、それだけ見るべきものが多いということであり、自然と視線の移動が多くなる。結果、そのコマでの見た回数が増えることになる。このことから、絵だけで構成されているコマで、総じて絵を見た回数が多いのも頷ける。文字の場合も同様のことがいえる。1つのコマに複数の文字（セリフのフキダシ）があると、そのコマの文字を見た回数が増加する傾向がある。また、1つのセリフが長いほどそのコマの平均持続時間が長くなる。

全体的傾向からはずれているコマ、すなわち、文字の方を多く見たコマ、絵の方を長く見たコマがいくつかあるが、それらのコマでは、絵と文字のバランスが崩れ、どちらかに偏っているようである。

以上のように、各コマの絵、文字それぞれから得られる情報の量によって、被験者はそのコマの見方を変えているといえよう。

このような中で特異なのが第３頁である。第３頁では、４段目２コマ目の平均持続時間が文字で長くなっているのを除き、全てのコマで、見た回数、平均持続時間ともに絵の方が多くなっている。また、その頁の全てのコマを平均した見た回数、平均持続時間は、第３頁の外は、見た回数では絵が、平均持続時間では文字が多いのだが、第３頁だけは両者とも絵の方が多かった。すなわち、第３頁は「絵を見る頁」であるといえる。

先にも述べたように、第３頁の内容は第２頁までの話の流れを受けたものである。頁中で大きなストーリーの展開は起こらない。そのため、文字による説明はほとんど必要がなく、あまり文字が見られなかったものと考えられる。その一方で、第３頁は、「お葬式」のハイライトともいうべき頁でもある。第２頁までで父親と祖母との関係が描かれている。そして第３頁では、父親の顔がないということが描かれている。

この、「父親には顔がなかった」ということは、２段目の１コマだけで描かれている。このコマは文字がなく絵だけで構成されているコマであるが、全頁・全コマを通して見た回数が２番目に多く、総持続時間は最大のコマである。すなわち、最もよく見られたコマといってよい。しかし、このコマには背景などの細かい描き込みはなく、父親の顔（お面）とそれを持つ少年の手、父親の首から上が、顔の跡の宇宙空間と共に描かれているだけである。上で述べた、絵は細かい描き込みがあるほどよく見られているという傾向からははずれる。読み手は、このコマがストーリー上重要な役割を持ったコマであることを認識し、何度も繰り返し、長い時間をかけて見たものと思われる。その際、なぜ顔がないのか、なぜ宇宙空間なのかといったことを考えていたのかもしれない。

4.2.3. 絵と文字とが複数ある場合

１つのコマの中に、絵と文字とがそれぞれ複数ずつ描かれているコマは、各頁に数コマずつある。そうした各コマの中で、絵と文字とがどのように見られているかについては、それぞれのコマによって違いがみられた。

まず、文字（セリフ）とその前後に見られる絵との関係について、両者に関連があることが多いコマと少ないコマとがある。ここでいう関連があるというのは、セリフの前後に見られる絵が、そのセリフの話者である場合、そのセリフが向けられた相手である場合のことをさす。関連がないというのはそれ以外の、発言が直接向けられたのではない人物や、背景に視線が移った場合をさす。前者に含まれるのは、第１頁４段目１コマ目、第２頁１段目、２段目１コマ目、２段目２コマ目、４段目２コマ目、第３頁１段目２コマ目、３段目１コマ目、４段目２コマ目、第４頁１段目１コマ目、１段目３コマ目であり、後者に含まれるのは、第１頁３段目、第３頁１段目１コマ目、第４頁２段目、３段目２コマ目、４段目である。もちろん、それぞれのコマにおいて、すべての移動がこの分類に当てはまるということではない。

文字とその前後に見られる絵との間に関連があるコマは、前半の頁に多い。これらのコマに共通しているのは、物語の後半に向けて、父親と祖母との親子関係に関した情報を提示しているということである。また、後半の頁のコマも含めての特徴としては、誰が誰に向けて当該のセリフを発言したかが明らかであり、なおかつ、その発言内容もその場にいる人物に関してのものであるということがあげられる。

一方、特に第4頁について顕著なように、誰が誰に向けて行った発言かが明らかであっても、その内容が会話をしている者達以外に関しての話である場合、その内容に関連した人物が見られるようである。つまり、第4頁2段目、3段目2コマ目、4段目では、会話は父親と少年との間で行われているのだが、その内容は祖母に関してのものであり、セリフを見る前後にはその祖母が見られることが多かったのである。

また、コマ内における絵の描かれ方によっても、文字とその前後に見られる絵との関係が変わってくるようである。すなわち、人物、特に会話に関係している者以外の背景などが多く描き込まれているコマは、当然ながら背景が見られることが多い。その結果として、文字（セリフ）とそれに関係した人物との間の視線の移動が少なくなると考えられる。

文字から文字への視線の移動についてはそれほど多くない。文字の前後には絵が見られることが多かったためである。文字から文字へと移動する場合は、同じ文字を続けて見直す場合が多かった。その間には、瞬きなどによるアイマークの消滅や、視線が枠外にはずれるということがあった。また、そこでやりとりされている会話のうちの1つのセリフから、他のセリフへという移動も多くなされた。

また、文字が複数にもかかわらず、全く見られなかったものもあった。

ここでいう「文字」は、多くの場合フキダシに囲まれたセリフである。しかし、文字の中にはフキダシで囲まれたセリフ以外のものもある。今問題としている絵と文字とが複数ずつ描かれているコマの中にも、セリフ以外の文字があるコマがある。第3頁の1段目2コマ目である。このコマでは、文字として少年のセリフと「かぱ」という擬態語が含まれている。これを「描き文字」と呼ぶことにするが、描き文字から描き文字への移動の他に、その前後のどちらかに少年のセリフが見られることが多かった。

絵の前後に絵が見られる場合、人物から人物への移動や、1人の人物について、身体の部分を1つずつ細かくみていくということが多く行われた。また、背景などが細かく描かれているコマでは、人物を見る合間に、その周辺の背景が見られることも多かった。

背景が見られる場合、その前後には文字や人物が見られることが多く、背景から背景へという移動はあまり多くないが、逆に、続けて見られるときには、その周辺を固めて見るということが行われるようである。

以上のことをまとめると、次のようなことが考えられる。

マンガでは、絵と文字とが重なり合い、それぞれの機能を持ちながら有機的に表現されており、読み手は、そうした絵からの情報、文字からの情報を統合しながら読み進めていくのである。物語の筋を追うだけならば、本材料の場合は文字だけを読んでいっても可能である。しかし被験者は当然ながらそうはしなかった。文字を読む前後にはその会話に関係している人物を見、その発話が誰から誰に対してなされたものか、どのような状況で、どのような表情でなさ

れたのかを確認しながら読んでいく。このような読み方が、絵と文字とが複数ずつあるコマではより明確になるものと思われる。

同時に読み手は、「経済的な」読み方をするともいえる。つまり、あまり大きな視線の移動は行われない。位置的に離れたところにあるものを見にいくよりも、現在見ているものの周辺へと視線を転ずることが多い。一度別のコマへ視線が移動したり、何らかの事情で見るのを中断したりした場合でも、もう一度そのコマへ戻った際には、先にそのコマで見ていたものやその周辺から見始めるということがよくみられた。これは経済性と同時に、現在見ているものと関連しているものを見るために別のコマへ移り、確認してからもとの場所へ戻るという読み手の読み方略をも示していると考えられよう。

4.2.4. 背景と主要人物

一口に「絵を見ている」といっても、その見ている対象はさまざまである。ここでは、絵を大きく背景と主要人物とに分け、それぞれがどのように見られているかについて検討する。

１つのコマの中に、背景と主要人物との両方が描かれているコマは、各頁に数個ずつあるが、最も多いのが第１頁の５個、最も少ないのが第３頁の２個である。これは、物語の構成からいって頷けるものである。

背景とは、主要人物達がおかれている場所の説明として考えることができる。例えば第１頁では、物語の発端として、病気の祖母を父親と少年とが見舞うということが描かれているが、その祖母のいる場所が病院ではなく、おそらく祖母の自宅であるだろうことが、その背景の描写によって説明されている。また、祖母が寝ているということを示すために枕や布団が描かれている。第２頁、第４頁も同様に、主要人物のいる場所の変化が、背景によって示されている。と同時に、以前その人物がいた場所と、現在いた場所とのつながりも、背景によって示される。従って、場面の転換がある頁に、背景と主要人物の両方が描かれていることはごく自然なことといえよう。読み手はこのような流れを、絵、特に背景から読みとっていると考えられる。

このように考えると、第３頁に背景と主要人物との両方が描かれているコマが少ないことも納得できる。第３頁には大きな場面の転換がない。よく見ると、主要人物がいる場所は、第２頁の最後と第３頁の最初とでは異なるらしいが、お葬式の合間の出来事という点では、第２頁と第３頁とはつながっている。従って、第３頁では背景を描く必要がないといえよう。

また、第３頁に背景と主要人物の両方が描かれているコマが少ないことの別の理由も考えられる。第３頁は、先述したようにこの物語全体のハイライトである。主要人物の表情等がポイントとなる。そのようなコマに、細かく背景などを描き込むのは、読み手に対する効果を減ずることであろう。

以上のことをふまえて、読み手がどのように背景と主要人物との両方があるコマを見たのかについて検討する。

全体の結果としては、第１頁と第４頁においては、見た回数は主要人物の方が多く、平均持続時間は背景の方が長かったが、第２頁、第３頁においては、見た回数、平均持続時間とも主要人物の方が優っていた。しかし、各コマ毎にみていくと、同じ頁のコマであっても、それぞれに違いがみられた。

まず、見た回数、平均持続時間とも背景の方が多いのは、第１頁２段目２コマ目、３段目、第２頁４段目１コマ目の３コマ、見た回数は主要人物が多く、平均持続時間は背景の方が長いのは、第１頁２段目３コマ目、第３頁４段目２コマ目、第４頁４段目、見た回数は背景が多く、平均持続時間は主要人物の方が多いのは第２頁４段目２コマ目、見た回数、平均持続時間とも主要人物の方が多いのは第１頁４段目１コマ目、４段目３コマ目、第２頁１段目、第３頁１段目１コマ目、第４頁１段目１コマ目、２段目であった。全体の傾向として物語の後半になるほど主要人物の方がよく見られるようになっていくということがわかる。

背景がよく見られたコマは、物語の発端と、大きな場面の転換の部分である。第１頁２段目２コマ目で「病気の祖母」が初めて絵で示されるが、その祖母の状態を示す背景である布団や枕がよく見られ、続く第１頁３段目で、その状況の全景が示される。父親と少年がどこへ見舞いに行ったのか、祖母の寝ている部屋はどうなっているのかなどが描かれているが、このような情報を絵から得るために、読み手は背景をよく見ていたと考えられる。また、場面の転換部分としての第２頁４段目１コマ目であるが、このコマでは、主要人物である祖母は全く見られていない。おそらく、その前のコマ（第２頁３段目）で誰かが亡くなったことが示され、文脈からその誰かとは祖母であることが明らかであるため、祖母を見る必要はなかったものと考えられる。ただし、誰かが亡くなり、お葬式が始まるということを確認するため、菊の花や遺影の額縁、黒リボンなどを見たものと思われる。

一方、主要人物がよく見られたのは、話の展開が登場人物の会話で表されている場合に多いようである。物語が進んでいく上で各登場人物のセリフが重要な役割を果たしているわけだが、そのような場合、誰が誰に向かっていったセリフなのかを確かめるために主要人物が多く見られ、相対的に背景が見られる割合が少なくなったものと考えられる。また、先にも述べたが、物語の後半になるほど多くなる傾向がある。これは、物語の進展につれて背景から得る状況に関する情報が必要でなくなっていったものと考えられる。つまり、前半で状況はほぼつかめているので、後半は物語の中に浸り込み、主要人物の言動を追うことに主な注意が向けられたのではないだろうか。また、本材料の絵柄に寄るところもあるだろう。本材料で描かれている背景は、いわばごく普通の絵である。部屋の様子や町並みが、スケッチのように描かれている。もちろん、それらによってどのような部屋か、どのような街かというイメージは形成されるが、逆に言えば、そこ止まりである。かわったもの、興味を引くものが背景の中にはない。従って、前半でイメージを作り上げることができれば、後半は背景をじっくり見るという必然性がないとも考えられる。

4.3. コマ間での視線の移動

コマ間での視線の移動は、頁を追うごとに多くなっているが、どの頁にも共通した傾向がみられる。まず、各頁とも移動のうちの半数は逆向、すなわち、後戻りである。また、どの頁においても、順向、逆向ともに、隣接したコマ間の移動が多くみられる。全体的にはこれらの特徴があるが、それぞれの頁ごとに、特に行き来の多い特定の２つのコマがある。以下、各頁ごとに検討する。

第１頁では、４段目１コマ目と４段目２コマ目との間の視線のやりとりが特に多かった。４

段目１コマ目は父親と少年のやりとり、４段目２コマ目は父親から祖母への問いかけであるが、４段目２コマ目のこのセリフは両者の親子関係を象徴的に表していると思われる。また、かなり強烈な表現であるので、そのような表現を用いる理由を４段目１コマ目に求めたのではないかと考えられる。

第２頁では、２段目１コマ目と３段目１コマ目との間で、他のコマ間と比較して多くの移動が見られた。２段目１コマ目は、父親の２人の姉の口から、父親と祖母との関係が語られる。３段目ではまったく場面が変わり、誰かが亡くなったことが示される。そして、それまでの話の流れから、亡くなったのは祖母であると予想できるし、その予想が正しいことが４段目１コマ目で明らかになる。すなわち、３段目は、「これから『お葬式』が始まる」ということを表すコマであり、そこで、時間の流れが不連続になっている。読み手は、お葬式以前の状態を確認し、時間を飛び越えてお葬式場面へ読みすすめていくために、２段目１コマ目と３段目１コマ目との間を行き来したものと考えられる。

第３頁では、１段目、２段目の３つのコマの間ではそれぞれやりとりがあり、３段目、４段目の５つのコマの間でもそれぞれやりとりがあり、どちらにおいても多数回の視線の移動がある。しかし、前半２段と後半２段との間の視線の移動は、少数回である。２段目は、このページのヤマ場であるだけでなく、物語全体のヤマ場でもある。一方、３段目は２段目の、ある意味での説明となっている。少年の反応を示すという意味もあるだろうが、特に３段目２コマ目は、２段目の内容を言語で表現したものである。３段目２コマ目から２段目への移動がある程度の数あるのは、そのためであろう。しかし読み手としては、「父親の顔がない」という内容が、２段目では絵で、３段目ではことばで表されているため、意識的に２段目と３段目の間を分断したとも考えられる。第２頁では、不連続な時間の流れをつなぐために、場面の変わり目の前後を見るということが行われたわけであるが、第３頁では逆に、連続した流れを切るために、前後のコマを続けては見ないという方策を採ったものと思われる。

第４頁では、１段目３コマ目と２段目との間のやりとり、３段目２コマ目と４段目との間のやりとりが特徴的である。特に１段目３コマ目と２段目との間には、それぞれのコマ内でどのように対象を見ていくかまでがパターン化されていた。すなわち、１段目３コマ目ではまず文字を見てから絵を見るという順であり、２段目では先に絵を見てから後で文字を見るということがほとんどであった。第４頁では、ストーリーに新しい展開があるが、それが１段目３コマ目と２段目とで表されている。つまり、「祖母のお葬式は済ませたのに、祖母がまだいる」ということを、少年の問いかけを用いた形でこの２つのコマを使って表現している。そのため、ストーリーを追うためにこの２つのコマの間を視線が何度も移動したものと考えられる。コマ内での移動パターンについては、それぞれのコマにおける文字、絵の占める面積の差にもよるものであろう。

また、３段目２コマ目と４段目とは、物語全体の最後の２コマである。今までのストーリーの流れが最終的にどのように終結するのか、それがこの２コマに描かれている。３段目２コマ目は、父親と祖母との確執に関連した内容が、４段目には父親の顔についての内容が示されているが、この２つは物語全体の重要なテーマである。その２つに決着が付いたことで、物語も結末を迎える。従って、この２つのコマを繰り返し見るということは、本作品を読み終えるに

あたって重要であると同時に自然なことでもあるといえよう。

4.4. 内容の再生

読み終わった後に行った口頭による再生のうち、各頁に関連したところを見てゆくと、一般に、その頁のうちのいくつかのコマの内容しか再生されていない。視線の動きの上からは重視されていたと考えられるコマ、すなわち見た回数や平均持続時間が多かったコマについて、何もふれていない場合もある。例えば第1頁の4段目はよく見られていたが、再生された内容には、この部分は含まれていない。「父親が祖母に憎まれ口をたたかれていた」ということで親子関係のすべてを表したつもりなのか、あるいは、全体からみれば1つのエピソードであり、あまり重要ではないと判断したかであろう。本実験とは異なる場面である人に本作品のあらすじを書いてもらった際にも、やはりこの場面は出てこなかった。ここから考えられることは、1つ1つのセリフなどは「あまり良好でない母子関係」というイメージを形成するのに用いられ、全体の内容を再生する時には使われないということである。これと理解していないということとは異なろう。事実、理解に関する質問に対する答えでは、あるエピソードを憶えていなければ答えられないような回答がなされた。マンガを読むということは、1つ1つのコマを読み込んだ上で、全体の大きな内容を理解するということであろう。

一方、当然のことではあるが、よく見られたコマの内容が再生される場合も多い。例えば、父親の無表情が指摘されるのは第2頁の4段目2コマ目であるが、このコマは見た回数が多く、特に、比較的文字がよく見られていた。このコマで描かれている父親の無表情については、後の話の展開で大きな意味を持っている。そのため再生される必要があったのであろう。このことからは、被験者は、1つ1つのコマが全体を理解する上でどのような役割を持っているかを認識しているということが示唆される。

4.5. 1回目と2回目との相違

第1頁と第4頁とは、ともに2回の通読がなされたが、4.1.全体の流れのところでも述べたように、この両頁における繰り返しての読みは、その機能が異なるものと思われる。以下、各頁ごとの1回目の読みと2回目の読みとを比較すると同時に、この2頁の読み方の違いについて検討する。

4.5.1. 絵と文字とではどちらを先に見るか

初見が絵であるか、文字であるかについても、当該のコマに視線が移動したときにはじめに見るのが絵であるか、文字であるかについても、第1頁、第4頁ともに、1回目の読みに関しては1回目と2回目を通した全体の傾向と同じであった。すなわち、初見が絵であるコマが両頁ともほぼ6～7割と多いこと、初見がどちらであったかと、通して読む際のはじめに見るものとが共通していたこと、全体では、第1頁では文字から見始めることが多く、第4頁では絵から見始めることが多いこと、などである。さらに、各コマ毎の傾向も、同一であった。

しかし、2回目の読みに関しては、全体傾向と異なる点が見られる。第1頁においては、1回目の読みと2回目の読みとでは初見の対象が異なるコマがある（4段目1コマ目、4段目2

コマ目)。また、通して読む際にはじめに見る対象についても、相対的に変化したコマがある(4段目2コマ目)。さらに、2回目では全く見られなかったコマもあった(1段目、2段目1コマ目)。

このうち、1回目と2回目とで、はじめに見る対象が変わったコマについて考えてみたい。初見の対象が変化したのは、4段目1コマ目(絵から文字へ)と4段目2コマ目(文字から絵へ)であった。4段目1コマ目では祖母と父親との親子関係が父親の口から語られる。またこのコマは背景が描き込まれており、絵からの情報が多い。1回目の読みの際には、得られる情報の多い絵から見始めたのだが、頁の最後まで読み、その頁の大体の内容がわかったところで、祖母と父親との関係をつかむことが重要であることを知り、2回目の読みでは文字から見始めたのではないだろうか。4段目2コマ目はその逆と考えることができる。絵から受け取る情報の少ないコマであり、1回目の読みでは文字から見始めたが、2回目の読みでは、父親の表情が親子関係を表す上で重要と考えたものと思われる。このコマは、通して読む際のはじめに見る対象が、1回目に比べて2回目では相対的に絵の割合が上がったが、これも同様の理由が考えられる。

2回目では全く見られなかったコマでは、タイトルと物語の発端を示す「祖母の見舞いに行く」ということが描かれている。これらについては、1回目の読みでわかってしまい、2回目の読みの必要がなかったものと思われる。

第4頁でも、2回目の読みが、全体の傾向と異なるコマが見られる。初見が1回目と2回目とで違うコマは1段目1コマ目であり、初見が絵であるコマの割合も、文字であるコマよりも少なくなった。また、通して読む際に始めてみる対象が変わったのも1段目1コマ目である。このコマは、絵も背景が描き込まれ、人物も3人登場するなど、絵からの情報が多いコマであるといえる。同時に、セリフも3つあり、この会話によって、お葬式が終わったことや祖母と父親との関係などが改めて示される。1回目の読みでは、情報量のより多い絵から見始めたが、そのコマに何が絵として描かれているかがわかり、さらに、物語の結末も知ってしまっている2回目の読みでは、物語をもう一度なぞるために、文字からの情報を多く得ようとしたのではないだろうか。

4.5.2. 絵と文字とではどちらをよく見ているか

1回目の読みと2回目の読みとの間で、両頁に共通した変化として、全体の見た回数、平均持続時間において、絵、文字とも、2回目の読みの方で減少していることがあげられる。また、見た回数は絵の方が多く、平均持続時間は文字の方が長いということは、両頁の1回目の読み、2回目の読みとも共通している。しかし、第1頁と第4頁とでは異なる点もある。

まず、見た回数についてであるが、上述のように、両頁とも2回目の読みの方が少なくなっているが、その減少の仕方が第1頁と第4頁とでは異なる。第1頁では、2回目の読みの際の見た回数は、1回目の読みのそれの約4割強であるが、第4頁では約2割弱にまで減少している。もともと両頁は、合計の見た回数において大きな開きがあるが、1回目の読みと2回目の読みとの間の変化にこれほど大きな差があるのは、各頁の2回目の読みの位置付けが異なることの傍証となろう。また、絵を見た回数と文字を見た回数とを比較してみると、すべての場合

に絵の方が多く見られているという点は同じであるが、第１頁では１回目の読みから２回目の読みにかけて両者の差が開いたのに対し、第４頁では逆に縮まっている。ここで、文字は物語の展開を示し、絵は状況を説明するものと大雑把にくくってみると、両頁の絵と文字の見られ方の変化を説明できる。繰り返しになるが、第１頁は物語の発端であり、祖母が病気であること、祖母と父親の関係があまり良好ではないことが示される。このような頁を読む際、まず絵から状況を知ると同時に、文字によって祖母と父親の関係を把握することが必要と考えられる。そのためには絵を見ることも必要だが、文字からの情報がより重要になるのは自然であろう。２回目の読みで文字を見る回数が相対的に減ったのは、１回目の読みで物語の筋をつかめたため、文字を見るよりも絵を見て状況をつかむ方を優先したものと思われる。このことは、２回目の読みで全く見られていないコマや、文字が見られなかったコマがあることからも示されよう。１段目と２段目１コマ目は２回目の読みでは全く見られなかったが、１段目はタイトル、２段目１コマ目は「祖母が病気なので見舞いにいった」ということと、祖母とは少年にとっての祖母であるということが示されている。これらのことは、１回目の読みのみで充分わかることであり、再び読み直す必要がなかったのだろう。また、４段目３コマ目は１回目の読みでも見られる回数が少なかったが、２回目の読みでは文字を全く見ていない。１回目の読みで「父親にいやなことをいう祖母」というイメージができあがり、２回目はその祖母を見るということだけで済ませたものと考えられる。一方、第４頁は物語の結末である。葬式の後も祖母がいることと、それに絡んで親子の確執の結末が描かれる。しかし、例えば葬式後も祖母がいるということがわかるためには、祖母が父親の背中にいるという絵を見ればよい。文字でも書かれているが、絵を見れば一目瞭然である。その他、背景などの描き込みも多く、第４頁は、絵からの情報が豊富な頁であるといえる。１回目の読みでは絵を多く見たことの理由として、このようなことが考えられる。絵を見て物語を理解していくための素地は、それまで読んできた中で培われていたのだろう。２回目の読みで、相対的に文字を見る回数が増えたのは、基本的には第１頁と同じ理由であろう。ただ、第１頁では、まず話の流れをつかむために１回目の読みでは文字を多く見、深く読むために２回目の読みで絵を多く見たのに対し、第４頁では、話の流れをつかむための１回目で絵を、確認のための２回目で文字を見たという違いがある。このような違いが現れたのは、上でも触れたが、読み手のその作品を読んでいくという経験によるものと考えられる。

各コマ毎にみた場合、両頁とも１回目の読みで多く見られた対象は、２回目の読みでも多く見られていることが多い。これに反するのは、第１頁４段目２コマ目、第４頁１段目１コマ目、１段目３コマ目である。第１頁４段目２コマ目は、１回目の読みでは文字が多く見られたが、２回目の読みでは絵が多く見られた。また、絵を見た回数そのものも１回目の読みと比べ２回目の読みで増加している。これは、上で述べたことと合致する。すなわち、１回目の読みでは文字による情報に重きを置いたのに対し、２回目の読みでは、大体の筋がわかった上で、絵を見ていくということである。第４頁の１段目１コマ目、１段目３コマ目においても、１回目の読みでは絵の方が多く見られたのに対し、２回目の読みでは文字の方が多く見られた。これら２つのコマに共通しているのは、「葬式が済んだ」ということが表されていることである。第４頁では、「祖母の葬式は済んだのに、まだ祖母がいる」ということが語られる。１回目の読

みの後でこれらのコマの見方が変わったということは、話の展開と結末までを見届けた上で、「祖母の葬式後」の出来事であるということをもう一度確認したものと考えられる。

次に、平均持続時間について検討する。上述したように両頁とも、1回目の読みよりも2回目の読みの方が平均持続時間は短くなっている。また、文字の平均持続時間の方が絵のそれよりも長いのは、どの場合も同じである。この中で、特に減少の度合いが著しいのが、第1頁の文字についてである。もともと第1頁の1回目の読みにおける文字を見る平均持続時間は突出していたが、それがほぼ半減し、他の頁におけるのとほぼ近い値か、あるいはむしろ短くなっている。このことからも、第1頁の1回目の読みにおける文字情報の重要さが導き出されよう。

各コマ毎にみた場合、両頁ともほとんどのコマで、1回目の読みで長く見られた対象は、2回目の読みでも長く見られている。これに反するのは第1頁4段目3コマ目、第4頁2段目、3段目1コマ目である。第1頁4段目3コマ目と第4頁3段目1コマ目との文字は、2回目の読みで全く見られていないので、その平均持続時間が絵よりも短くなっていることは致し方ない。しかし第4頁2段目は、1回目の読みでは文字を長く見ていたのに対し、2回目の読みでは絵を長く見ている。このコマは、絵からの情報が多いコマであるが、物語の新しい展開を示すコマでもある。上記の結果も、1回目の読みでは文字からの情報による話の流れをつかむことにより重きを置き、2回目の読みでは把握した内容に基づき、さらに絵からの情報を読みとろうとしたことを表しているものと考えられる。

2回目の読みでは、両頁とも絵の平均持続時間も文字の平均持続時間も減少しているコマが多いが、逆のコマもいくつかある。第1頁2段目2コマ目の絵、2段目3コマ目の絵、4段目3コマ目の絵、第4頁1段目1コマ目の絵と文字、2段目の絵、3段目1コマ目の絵、3段目2コマ目の文字である。2回目の読みで絵の平均持続時間が増加したというものが多いが、この理由についてはすでに繰り返し述べたものと同じであろう。2回目の読みで文字の平均持続時間が増加しているコマが2つあるが、中でも第4頁3段目2コマ目の増加の程度は大きく、2倍以上になっている。このコマは、ある意味で物語全体の終わりを描いているコマである。すなわち、祖母と父親との確執に対する父親なりの結論が述べられる。そしてそれは、文字である父親のセリフとして示される。読み手は本材料を読み終わるにあたり、物語に結末をつけるため、このコマの文字を時間をかけてみたものと考えられる。

4.5.3. 絵と文字とが複数ある場合

1回目の読みと2回目の読みとでコマの見方が大きく変わったのは、第1頁4段目1コマ目と第4頁2段目とである。

第1頁4段目3コマ目では、1回目の読みも2回目の読みも人物の絵とその人物のセリフとを行き来して見るという点では共通しているが、1回目の読みでは、少年と父親との間の視線の移動があり、従って、少年のセリフも見られていたが、2回目の読みでは、少年が全く見られていず、少年のセリフも見られなかった。

このコマは、それまでも漠然と感じられていた「祖母と父親との間はうまくいっていない」ということが初めて明示されるコマである。そしてそれは、父親と少年との会話によって示さ

れる。１回目の読みで父親と少年の双方が見られたのはそのためであろう。しかし、２回目の読みでは、父親しか見られていない。祖母と父親との関係を決定的に表しているのは父親のセリフであるといえるので、２回目の読みでは、父親に重点が置かれたものと考えられよう。

第４頁２段目は、背景など絵が細かく描き込まれているコマである。そのためもあると思われるが、人物や文字を見る合間に背景がよく見られている。しかし、間に背景を見ることはあるものの、比較的早いうちに、関連のある人物とそのセリフを見ている。少年のセリフの前後に父親を見、父親のセリフの前後は父親や祖母を見るという傾向がある。さらに、祖母と父親との間で視線の行き来がある場合も多い。２回目の読みでは少年のセリフを見た後で父親を見るまでしばらくかかっている。また、父親と祖母との間の視線の移動もない。祖母や少年は、あまり見られることもなかった。これらのことは、１回目の読みでこのコマの状況をほぼ把握しており、２回目の読みでは少年のセリフで「祖母がいる」ということと、登場人物達のいる場所が移動していることとを、読み手が確認していることを示していると思われる。

4.5.4. 背景と主要人物

多くの場合、見た回数は主要人物の方が多く、平均持続時間は背景の方が長いという結果であったが、第４頁の１回目の読みにおいては、見た回数は主要人物の方が多いく、平均持続時間も主要人物の方が長かった。また、両頁の１回目の読みと２回目の読みとを比較すると、両頁とも、見た回数は背景、主要人物とも２回目で減少したのに対し、平均持続時間については、主要人物が減少したのに対し、背景は増加した。背景と主要人物との見た回数を１回目の読みと２回目の読みとで比べると、第１頁では背景の割合が減少し、第４頁では増加した。総持続時間では、両頁ともにおいて背景の占める割合が増加した。これらのことから次のようなことが考えられる。先にも述べたように、主要人物はその場の登場人物を示し、話を進めるための、多くの場合はセリフを喋る存在であるのに対し、背景の方は、その人物達がおかれている場の状況、場所や周囲の様子などを示すものであるととらえることができる。主要人物と背景の位置づけをこのようにとらえると、第４頁で１回目の読みより２回目の読みの方がよく背景を見られているということも肯ける。文字の前後にはそのセリフに関係のある人物が見られることが多いということは既に述べたが、１回目で話の筋を追うために文字をよく見たのだとすれば、その流れで主要人物が見られたのは自然であろう。第１頁では、背景の見た回数の割合が２回目の読みで若干減少しているが、この頁では、まず登場人物の人間関係を把握することが重要と思われるので、２回目の確認のための読みでも、主要人物に目が向けられたものと考えられる。第４頁では、既に登場人物の関係については充分わかっているので、２回目の読みではより細かい情景の描写を見ていったのであろう。

各コマ毎に見てみると、見た回数、平均持続時間とも背景の方が大きいコマ、いずれも主要人物の方が大きいコマ、見た回数と平均持続時間とでよく見られた対象が異なるコマとがある。１回目と２回目とでほぼ同様の傾向を示したコマもあるが、異なる結果となったコマも多い。第１頁２段目３コマ目、３段目、４段目３コマ目、第４頁２段目、４段目である。第１頁２段目３コマ目は、１回目の読みでは主要人物がよく見られたが、２回目の読みでは背景がよく見られた。３段目は、１回目の読みでは見た回数、平均持続時間とも背景の方が多かったが、２

回目の読みでは見た回数で主要人物の方が多くなった。4段目3コマ目は、1回目の読みでは背景と主要人物とが同じ程度見られたのが2回目の読みでは主要人物の方に偏った。第4頁2段目は1回目の読みでは見た回数、平均持続時間とも主要人物の方がよく見られたのに対し、2回目の読みでは平均持続時間が背景で長くなった。4段目は、1回目の読みでは見た回数は主要人物が、平均持続時間は背景が多かったのが、2回目の読みではいずれも逆転した。これらのコマのうち、1回目の読みでは主要人物をよく見ていたのが2回目の読みでは多少なりとも背景が重視されたコマは第1頁2段目3コマ目と第4頁2段目とである。この2つのコマは、物語の進展上、重要なコマであるという点で共通している。すなわち、第1頁2段目3コマ目では、主要人物の1人である父親が初めて描かれているし、第4頁2段目は、葬式後も祖母がいるということが示されている。このような場合、まず主要人物を見ることにより話の流れをつかむことが、その人物達がどこにいるかをとらえることよりも優先されたと考えられる。一方、1回目の読みでは背景に重点がおかれ、2回目の読みでは1回目の読みに比して主要人物の注目度が上がったコマは、第1頁3段目と4段目3コマ目、第4頁4段目である。第4頁4段目は、上述したようによく見られた対象に1回目の読みと2回目の読みでねじれが見られたが、総持続時間を見てみると、2回目の読みでは主要人物がよく見られるようになったといってよかろう。これらのコマのうち、特に第1頁3段目と第4頁2段目は、1段すべてが1コマとして使われており、背景が細かく描き込まれている。登場人物達がどこにいるか、それはどのような状況下でか、などが、第1頁4段目3コマ目も含めて、その背景を見ることによって明らかになる。見るべき対象は背景の方が多い。コマの中で占める面積という点からいっても、これらのコマでは背景の方が大きい。その一方で、これらのコマは物語の進展上重要なコマでもある。第1頁の2つのコマでは、祖母と父親の親子関係が、第4頁4段目では物語の結末がそれぞれ示されている。従って、1回目の読みでは、まず目を引く背景がよく見られ、それによって場の把握がなされたが、2回目の読みでは、話の流れを確認するためにも主要人物が比較的よく見られたのだと考えられる。

1回目の読みと2回目の読みとでほぼ同様の傾向を示したのは、第1頁2段目2コマ目、第4頁1段目1コマ目である。前者では背景がよく見られ、後者では主要人物がよく見られた。このことも、既に述べてきたことから考えると自然なことと思われる。つまり、第1頁2段目2コマ目では病気の祖母が寝ているということが描かれており、寝ているということを示すための背景、布団や枕がよく見られたものであろう。第4頁1段目1コマ目では、祖母と父親との親子関係が主要人物のセリフで再確認される。そのため、主要人物に重点がおかれたものと考えられる。

4.5.5. コマ間での視線の移動

第1頁と第4頁とでは、コマ間の移動について大きな違いがある。まず、第4頁の2回目の読みでは、コマ間の視線の移動回数が非常に少ない。第1頁でも、2回目の読みではコマ間の視線の移動が少ないが、それでも1回目の読みの4割近くある。第4頁の2回目の読みでは、1回目の読みの1割にまで減少している。また、第4頁の2回目の読みでは後戻りが約15%にしかならない。第1頁の1回目の読みでは約4割、2回目の読みと第4頁の1回目の読みでは

ほぼ半数である。他の頁の場合も、後戻りはほぼ半数を占めていたことから考えても、第４頁の２回目の読みにおける後戻りは極めて少ないといってよかろう。移動先については、隣接するコマへの移動が、順向、逆向ともすべての場合に多いが、この傾向は第４頁の２回目の読みにおいて一層顕著である。隣接したコマ以外への移動は１回あるだけである。

これらのことから、第１頁における２回目の読みと、第４頁における２回目の読みとでは、その位置づけが異なるといえよう。４.１.全体の流れにおいての考察が、コマ間での視線の移動からも確かめられたものである。第１頁の２回目の読みは、１回目の読みを補うものとしてとらえることができる。２回目の読みは、その規模こそ小さいものの１回目の読みとほぼ同じ読み方がなされている。１回目の読みで把握した内容を、見る対象を変えたりしながら、もう一度おさらいし、確認しているものと思われる。これは、既に述べたように物語の発端である頁であるため、今後の読みに備えて人間関係や状況などをよく理解しておく必要があったためであろう。一方、第４頁の２回目の読みは、コマの順序にそって軽く流しただけであるといえる。逆向が少ないのもそのためであろう。１回目の読みではコマ間の移動も多く、内容は充分把握されているものと考えられる。２回目の読みでは同じコマを何度も見返すこともなく、また、前のコマを見直すこともなかった。第４頁の２回目の読みは、実験の終わりに向けて、言い換えれば、読み手自身が「読み終わった」ことを納得するために必要であったということができよう。

特に行き来の多い特定の２つのコマが、第４頁の２回目の読みを除いて、それぞれの読みに見られた。第４頁の２回目の読みは、前述したようにそもそも逆向がないので、視線の行き来というものは見られなかった。以下、特定の２コマ間の視線の行き来が多いものについて述べる。

第１頁では、１回目の読み、２回目の読みに共通して４段目１コマ目と４段目２コマ目との間の視線の行き来が目立つ。４段目１コマ目は父親と少年との会話であり、ここで初めて父親が祖母をどうとらえているかが明らかにされる。続く４段目２コマ目は父親から祖母への問いかけであるが、その内容は辛辣であり、なぜそのような発言がでてくるのかについての理由を４段目１コマ目に求め、この２コマ間の行き来が多くなったものと思われる。また、４段目２コマ目では、父親の姿が描かれているが、その身体の向きが、それまでのコマと反対になっている。これは、改めて祖母の方へ向き直っているという印象を与えるが、そのギャップを味わうための視線の行き来であるともとらえられる。

４段目１コマ目と４段目２コマ目との間に比べると、数は少なくなるが、２段目１コマ目と３段目の間でも視線の行き来が見られる。これもやはり、１回目の読み、２回目の読みともに共通している。２段目１コマ目は物語の始まりで、少年の横顔のアップとともに祖母が病気であること、そのお見舞いに行くことが示される。３段目は、３人の登場人物がすべて描かれており、３人がおかれている場の状況の全景が描かれている。すなわち、２段目１コマ目で文字により呈示された内容が、絵によって具体的に描かれているのが３段目であると考えられる。この２コマで視線のやりとりがあるということは、物語の舞台設定を、絵と文字との双方によって確認しているということであると考えられよう。

このように、第１頁においては、１回目の読みと２回目の読みとで、行き来の多いコマが共

通している。このこともまた、１回目の読みと２回目の読みとがほぼ同じ意味、機能を持つことの証左であるといってよかろう。

第４頁の１回目の読みでは、視線の行き来の多い２つのコマが多数ある。１段目１コマ目と２段目、１段目３コマ目と２段目、２段目と３段目１コマ目、２段目と３段目２コマ目、３段目１コマ目と４段目、３段目２コマ目と４段目である。このように見ていくと、第４頁においては２段目が鍵となるコマであるといえる。２段目は、他のコマと比較して見られた回数が大変多くなっているが、これは、２段目への、あるいは２段目からの視線の移動が多いことによるものであろう。

さて２段目は、１段目の３つのコマで、祖母の葬式を済ませたことが確認されたのをうけて、その祖母がまだいること、それも父親の背中に乗っていることが絵と文字との両方で示されているコマである。１段目１コマ目と１段目３コマ目とは、語る人物は異なるが、父親以外の者の口から、ともに祖母の葬式が済んだことが語られており、そのような２つのコマと２段目とを交互に何度も見るということは、「葬式後も祖母がいる」という話の流れを読み手が確認し、それがどういう意味を持つのかについて理解しようとしていたものとして考えることができる。このように考えると、２段目と３段目の２つのコマとの間の視線の移動、３段目の２つのコマと４段目との間の視線の移動についても説明がつくように思われる。まず、２段目と３段目の２つのコマについてであるが、２段目までの内容を受けて、では父親はどうするのかが次の展開となることは容易に推測できる。そして、その父親の対応が３段目の２つのコマで描かれている。２段目と３段目の２つのコマとの間で視線のやりとりがあるということは、その死後も存在し続ける祖母と、それを承知した上での父親の対応について、読み手が把握しようとしていることを表していよう。そしてその理解の上に、４段目がある。３段目の２つのコマと４段目との間にも、頻繁な視線のやりとりがあるが、特に３段目２コマ目と４段目との間に多い。３段目１コマ目では、父親が「心配ないよ」と話すことで、祖母の存在を気にしていないことが示され、その理由が３段目２コマ目で表される。それを受けて４段目では、少年が父親の「顔」について言及し、父親は、祖母への「復讐」の具体的な事柄をあげている。つまり、３段目２コマ目と４段目では、この物語の重要なテーマであった「祖母と父親との親子関係」、それから発する「父親の顔がないこと」に対する１つの解答が示されているということができる。物語の終わり、すなわち、それを読むことの終わりにあたって、このようなコマを繰り返し見ることにより、読み手の中でも物語を終わらせようとしたものと考えられる。

第４頁の２回目の読みでは、前述したようにコマ間の視線の移動そのものが少なく、しかも、逆向が１回しかない。従って、特定のコマ間の視線のやりとりは存在しない。第４頁においては、１回目の読みでその内容を充分把握したため、また、そのために１回目をしっかり読んだともいえるが、２回目の読みは、話の流れをもう一度なぞるにとどまったといえよう。このことからも、第１頁における２回目の読みと、第４頁における２回目の読みは、その位置づけが異なるものと考えられる。

5．おわりに

本実験では、ある被験者がある特定の作品を読んだときの視線の移動を分析した。コマ内の視線の移動については、多くのコマに共通するパターンが見いだされた。また、コマ間の視線の移動についても、一般的な傾向があることがわかった。一方、これらの視線の動き、すなわち読み手の見方は、頁やコマの構成、内容などによって影響を受けることも示された。各コマに何がどのように描かれているかによって、その読み方が大きくかわっていたのである。同じ作品、さらに同じ頁内であっても、コマの特性に合わせて読みを変化させるということは興味深いことである。読み手は、そこに描かれているものから最大限の情報を引き出そうとしているのだといえよう。

そして、このような見方がマンガの内容の理解に関係していることも示唆された。つまり、あるマンガ作品を読むとき、基本的にはある方略が用いられるが、それは可変的であり、読み手はその内容や構成によって臨機応変に読み方を変えていく。そのようにして読むことにより、内容を理解していくことができる。

しかし、ここに大きな問題がある。読む前になぜ内容がわかるのであろうか。考えられることの1つとして、読み方の手がかりとなる内容とは、それまでの経験から読み手が身につけたルールからいわば「あたり」をつけたものであり、読後理解した内容とは異なるかもしれないということである。今後は他の材料や被験者についても同様の分析を行い、一般化をするとともに、マンガの読みの熟達過程についても検討することが求められよう。